

ニシテ縱令勞農政府が如何ナル金塊ノ禁輸政策ヲトルトモ之ガ防止ハ不可能ナルベク況ヤ政府ハ金貨ノ回收、新紙幣ノ「チエルオーネツツ」ヲ之ニ代フルトモ露支民共ニ其價值ヲ疑ヒ商業取引ヲナサズ反ツテ物價ノ高騰ヲ來シ生活ハ困難トナルベク人民ニ對スル苛斂誅求ハ此際如何ニシテモ金貨塊貯藏ニヨリ將來ノ安全ヲ期セラルベク露金礦業者又竊ニ黑河ニ運ブコトノ有利ヲ知リ斯クテ彼等ハ黑河斯業者ニ賣却スルノ途ニ出ヅルモノナルベシ又逢源公司金礦ヨリ歸來セル採工夫ト雖モ盜掘ニヨリ夫々大小數百千元ヲ所持セル者アリ此等ハ同ジク黑河斯業者ニ賣却スルモノナリ、目下黑河ヲ中心トシテ支那側金礦熱頓ニ旺盛ニシテ事業ニ著手セントスルモノ、數大小三十餘ヲ算シ發達ノ域ニアリ即チ此等ヲ利用セバ蓋シ將來發展ノ望アル事業タルベシ、因ニ斯業者ハ支人ノミ外人ナシ

(露亞時報第五十三號)

◎辰砂ノ發見

黑河情報ニ據レバ同地楊秀峯ナル者ヲ經理トナス同利金礦公司ハ黑河ノ上流次賓河ニ於テ試掘ヲ行ヒツツアルガ最近同所ノ苦力把頭ハ探礦中ニ收得セシ朱赤色粒狀ノ礦物ヲ携ヘ歸レリ彼等ノ言ニヨレバ之レハ砂金層中ヨリ土砂ト混合シテ産シ砂金ノ存在ヲ知ル好乎ノ指示物タリ之レヲ珠砂ト稱シ藥用ニ供スルモノニシテ一斤數元ニ價スト同礦物ハ一様ニ直徑約一乃至一・五釐ノ圭角ニ乏シキ砂粒狀ヲナシ稍赤鐵礦ニ類セル色澤ヲ呈シ之レヲ粉載スレバ鮮明ナル朱赤色ヲナス之レヲ炭酸曹達ト共ニ閉管中ニ熱スル時ハ多量ノ金屬水銀粒ヲ折出シ且ツ硫黃臭ヲ發生ス故ニ此ノ礦物ハ辰砂ナルコトヲ確定セリ同礦區ハ黑河ノ上流約二百支里ナル滿洲屯ヨリ客尼河ニ沿ヒテ約百支里ノ地點ニ存シ表土ノ厚サ約一丈含金屬ノ厚サ約三尺含金屬一簍箕一ドリ以上ナレトモ出水多クシテ未ダ溝ノ中心

線ノ探鑛井ハ徹底シ居ラズ今年冬期ヲ待チテ再ビ探鑛ヲ開始スル豫定ナリト云フ (東亞採金局情報)

◎嘉蔭河金廠ノ「ドラーガ」機ノ使用計劃

黑河道管内ノ太平金廠ハ觀都金礦局ノ鑛區ヲ引繼後銳意探鑛ニ力メツツアルガ同金廠ニ屬スル嘉蔭河ニ於テ去冬中河床十餘里ニ亘ツテ探鑛ヲ行ヒタル結果頗ル「ドラーガ」ノ使用ニ適セルコトヲ確定セシカバ目下黑河埠頭ニ繫留中ノ「ドラーガ」機ヲ使用シテ探掘ヲ行ハムコトヲ劃策シツツアリ同「ドラーガ」機ハモト梧桐河金鑛局ニテ使用スル目的ヲ以テ四十萬元ノ巨資ヲ投ジ米國ヨリ購入セシモノナルガ原動機トシテ石油内燃機關ヲ使用セル故當地方ニ於テハ頗ル不經濟ニシテ一日五百元ノ燃料代ヲ要スル由ニテ購入セシママ一回モ使用セズ久シク放置セラレ廣信公司ニ於テ之レヲ保

◎興安嶺附近ノ砂金及白金

昨年末歐露ノ採金地ヨリ哈爾濱ニ歸來セシ支那苦力ハ嘗テ興安嶺附近ニテ砂金ノ採集ニ從事シ居タル關係上再ビ同地ニ居住シ居リシカ偶然ニモ雅魯驛(博克圖驛東方)ヨリ程遠カラヌ處ニ有望ナル砂金鑛ヲ發見シ今日迄秘密裡ニ採集シタ額ハ既ニ數布度ニ達シテ居ルトノ話ハ最近一苦力ノ不用意ナル雜談ヨリ世間ニ知ラレ尙砂金鑛ノ外白金脈モ發見シテ居ルトノ噂アリ、此噂ハ數旬前ヨリ哈爾濱市民ノ口ニシテ居タル處ナルガ五月八日朝刊サリヤ紙ニモ同様ノ記事アリ元來興安嶺林區々域内ニハ昔支那人カ砂金ヲ採集セシ處ト云フ跡アリ又

(東亞採金局情報)

林區附近ニ白金脈アリトノ事ハ古クヨリ林區ニ在住スル露支人ノ等シク噂シテ居ル事ナレバ或ハ前記ノ噂モ全然根據ナキモノニアラザルベシ

蒙古及西比利亞方面

▲蒙古

◎西元寶山炭礦

位置及地勢 赤峰縣内ニシテ赤峰市ヲ東東北ニ在ル六十五支里ニ西元寶山ノ丘陵アリ其東南勾配面ノ八合目ニ炭礦アリ附近ハ一大波狀地ヲナスモノナレドモ地隙龜裂等多ク地面ノ起伏甚シ陸地測量部假製版百分ノ一圖上元寶隆ノ南二十五支里建昌營子ノ西五支里ノ地點ニ在リ東南方ハ共ニ濶曠ノ地帯ニシテ緩傾斜ハ建昌營子附近ヨリ平坦トナリ一平野ヲナス赤峰市街ヲ流ル、英金河(附近ニテハ舍利嘴河ト稱ス)ハ北ヨリ黒水ヨリ來ル老哈河

ハ南ヨリ來リ此平野ニテ合シ東流ス
沿革 今ヨリ七八十年前清咸豐年代赤峰ノ紳士李杜許姓等相集リ小資本ヲ以テ開辦シタルモノニシテ當時ハ同元寶山ノ南面現在地ヨリ西方十五支里溪谷間ニ在ル木頭溝附近ニ作業シタルモノニシテ漸次掘盡シツ、東漸シテ現在地ニ來リタルモノニシテ以上諸姓ノ子孫ハ祖業ヲ嗣ギ隨時増資シ其規模ヲ擴張シ方法ヲ改善シ光緒二十八年純然タル土法ヲ改メ坑道ニレールヲ敷設シ畜類ノ力ヲ使用スル如クナリ此地方ニテハ略々面目ヲ一進シタルモノトナルニ至レリ

探礦 其地ノ彩勢炭層ノ傾斜等ニ據リ鑿坑ニ二法ヲ執リ一ハ豎坑他ハ斜坑(四十度乃至五十度)トス豎坑ハ勾配ノ高位ニ穿テ直下四十丈トス斜坑ハ下勾配ニ在ルモノニシテ斜長約四十丈餘ナリト云フ地下炭層ハ大ナル傾斜ナク殆ド水平層ニ近キモノナリト云フモ高所ノ豎坑ヨリ探掘スル炭ハ下層

ニ達シ他ニ比シ良質ノモノナリ豎穴ハ三箇所アリ斜坑ハ工夫ノ上下スル坑道ヲ除キ探掘ノ可能ナルモ及排水ヲ兼スルモノト合スレバ合計五坑アリ探掘用具ハ鶴嘴(銛ト稱シ長サ一尺餘柄二尺前後ニシテ尖端ノ鋭ク尖リタルモノ)及鑿ヲ以テ炭層ヲ壞シ鐵匙(鐵銚)ヲ以テ之ヲ集メ箆(筐子)ヲ以テ捲揚機ノ本ニ運ブモノナリ

探掘工程ハ工夫ノ多少ニ據ルモノナルガ現在(十月中旬)ハ作業坑右ノ内三坑ニ止リ從業工夫百五十餘名ニシテ一日ノ出炭量僅ニ四五萬斤ヲ出デズ冬期農閑時工夫ノ稼業者六七百ニ及ブトキハ三十萬斤ヲ越ヘ尙最大能力ヲ上ルニ至レバ四五萬斤ヲ探掘シ得ルト云フ

支柱ノ方法ハ豎坑ニ在リテハ間隔一尺斜坑ニ在リテ二尺五寸乃至三尺毎ニ直徑二寸乃至五寸ノ柳又ハ楊ノ丸太ヲ以テ榘留ヲ施シ底部ノ坑道ハ五寸以上ノ直徑アル丸太ヲ用キ二三尺ノ間隔ニ支柱ス工

夫ノ出入坑ハ斜坑ニ足場トシテ六寸間隔ニ二三寸ノ丸太ヲ横ヘ階段ヲ作リテ夫ヲ一歩々々ノ足場トスルモノナリ

運搬方法ハ探掘セル石炭ヲ條柳ニテ編ミタル筐子ヲ以テ捲揚機ノ本ニ運ビ斜坑ハ坑道ニ小型レールヲ複線トシ各軌道ノ中央ニ一條ノ棕櫚繩直徑(一寸三分)ヲ通ジ所々ニ滑車ヲ以テ此繩ヲ支持シ斜ニシタル線捲井戸式ニテ釣瓶ノ大滑車(即チ軸)ヲ坑口ヨリ四五間ノ處ニ置キ其軸ニ固定スル柄ヲ長ク出シ驢馬或ハ騾馬二頭ヲ套シ一人ノ子供ニ驅使セシメ坑口ヨリ合圖ニヨリ同方面ニ軸ノ圍ヲ巡リ上下スル繩ハ軸ニ捲付繩ノ一端坑口ニ出ヅル時ハ他端坑底ニ至ル規模ニシテ兩端ニ鈎ヲ付シ石炭六、七百斤ヲ容ル、箱車ヲ付ス坑底ヨリ上リタル車ハ坑口ニ於テ鈎ヲ離レ二人ノ人夫ニヨリ軌道ニ沿ヒ左方ノ精選所ニ至リ石炭ヲ出シ又鈎ヲ付シ坑底ニ下スモノニシテ軸ノ廻轉ハ緩慢ニシテ四十餘

丈ヲ一上スルニ約十分間餘ヲ費シ又人力ニ據リ精選所ニ運ビ原位置ニ復スル迄十餘分ヲ要ス
堅坑ハ直下スルヲ以テ坑口ニ木造ノ櫓ヲ造リ櫓ノ上端ニ二箇ノ滑車ヲ置キ釣瓶ノ軸ハ坑口ヨリ五間餘距リタル所ニ前述ノ通り畜力ニヨリ軸ヲ裝置シ其廻轉ニ依リ釣瓶上下スルモノニシテ釣瓶ハ木製ニ金輪ヲ入レタル頑丈ナルモノニシテ八百斤以上ヲ容ル、ヲ得石炭ヲ容レタル釣瓶ハ坑口ニ於テ回轉ヲ止メ人力ニヨリレールノ上ニ裝置シタル車體ノ上ニ載セ精選所ニ運ブ其上下等ニ要スル時間ハ同前ナリ堅坑ニシテ捲揚ニ全然人力ニ據ルモノ一坑アリソハ坑口ノ直上ニ木製ノ臺ヲ作り圓軸ヲ横ヘ夫ニ上下スル麻繩(直經約一寸)ヲ捲キ軸ノ兩端ニ長サ五尺餘ノ把柄ヲ突出シ双方ニ二人宛之ヲ握リ軸ヲ廻轉シ捲上グルモノニシテ人力用ノ釣瓶ハ柳條ニテ編ミタル筐子ニシテ三四百斤ヲ容レ畜力ニ據ル以上ノ時間ヲ要ス以上總テノ坑口裝置ハ

簡單ナル家屋ノ中ニ在ルガ屋根ハ椽(高粱殼)ヲ以テ蔽ヒ日光ノ直射ヲ蔽フノミニテ雨露ヲ防グニ足ラズ
精選サレタル石炭ハ直ニ門外ニ待ツ馬車ニ積載サレ各地ニ分布サル
運賃ハ季節及各地ニ因リ一定セザルモ赤峰迄百斤平均大洋三十仙ナリ積載料ハ大車ニシテ二千斤乃至四千斤駄載ニテ駄子ノ二百斤乃至三百斤ノ見當ナリ
排水 排水坑ハ勾配ノ最下位ナル斜坑ヲ使用シ動力坑道ノ規模ハ前述ノ畜力ニ據ルモノト同一ナリ上下スル容水車ハ木板ノ箱ニシテ四面ヲ塞ギ上面ノ前方ニ四寸平方ノ口ヲ開ケ漏斗ヲ付シ水ハ約六百斤餘ヲ容ル、ト云フ此炭山ニハ排水坑ハ只一箇所アルノミニテ全坑ヨリ湧出スル水ヲ排水スルモノナリト云フ別ニ唧筒等ノ設備ナシ
通風及點燈 通風裝置ハ諸坑ノ北方ニ簡單ナル風

穴ヲ穿テ大型ノ軸ヲ備ヘ換氣スルモノナルガ固ヨリ簡單ナルモノニシテ坑底ニ普遍的ニ送ルヲ得ズ平常ニ在リテモ奥部ハ空氣最惡シク殊ニ當礦山ニ在リテハ西南風ノ際ハ堅坑ノ通風充分ナラズ坑ノ奥部空氣ハ澁滯スルヲ以テ悶熱甚シク發生ノ瓦斯蓄リテ不潔ニシテ危險甚シク西南風強キ際ハ全然通風不可能トナリ燈火ハ消ヘ工夫ノ下坑不可能トナル事アリト云フ使用點火ハ磁器製ノ油壺ニ金屬製ノ柄ヲ付シ麻油ヲ點ズル裸火ニシテ二寸餘ノ炎ヲ出シ日本ニテ點火ニ細心ノ注意ヲ拂フニ反シ人畜ニ危險ノ到ラザルコト寧ロ奇績トス
精選 坑上ニ揚リタル石炭ハ箱車或ハ筐子ヨリ精選場ニ堆積サル夫ヲ二三ノ子供等ハ長柄ノ熊手ヲ以テ塊ト粉トヲ搔分ケ夾ミ等ヲ取除クモノナルガ粉炭多ク五百斤中二百斤若ハ二百五十斤ノ粉炭アリ其所ニテ塊粉共ニ斤數ヲ量リテ需要者ノ手ニ移ル

稼業期 本地方ハ季節ニ據リ石炭ノ需要額一定セズ氣候及一般産業ニ支配サル、ヲ以テ四季共同數ノ工夫ヲ備フルハ營業上困難ナルヲ以テ四季常用トシテノ人夫ハ二百人未滿ニシテ夫等ハ間斷ナク稼業スルモノナルガ十月ヨリ翌年ノ四月ニ至ル七箇月間ハ寒冷季トテ需製激増スルヲ以テ農閑時附近ノ農民ハ皆是ニ吸收サル、ルモノナリ
營業組織 不完全ナル合資組織ニシテ先代ヨリ小資本ニテ起工シ事業ノ好況ト共ニ次第ニ擴張シテ今日ニ及ビタルモノナルガ投資ニハ錢股及薪(身)股ノ二様ニ別レ錢股子ハ即チ金錢出資ノ株ニシテ一株約大洋二千元餘トス株主左ノ如シ

姓名	株數	住所
李風五	二	赤峰三道街
許彥如	三	同 同
杜克正	三	同 二道街
李雅臣	三	同 頭道街
李子芳	五	同 同
富姓	一	山西省

薪股子ハ身ヲ以テ投資ノ代リトシ經理番頭其他ト主ナル李鳳五杜克正等ハ其重ナルモノナリ而シテ現在凡ソ三萬元以上ノ投資額ナリト示フ炭山ニハ事務所ヲ置キ錦元局ト稱ス經理ヲ置キ諸凡ノ事務ヲ掌ラシメ赤峰市内ニ分店ヲ置キ株主トノ折衝及納稅相場評定等ヲナス一年一回ノ清算ニシテ經營ハ一般支那商店ト同ジク其經理ハ株主ノ内ヨリ選拔サル、コトモアレバ他ニ適宜人選スルモアリ事務所ハ炭坑ノ下方ニ在リ莊大ナル一廓ヲ占メ事務員二十人餘鐵工木工等凡ユル工匠ヲ網羅シ四十名ノ騎馬兵ヲ備ヘ自警シ事務所付常雇人ト合計百名餘アリ其他炭坑工夫ノ收容所トシテ四棟ノ家屋ヲ設ケ八百名餘ヲ收容シ得一箇ノ城廓ヲナス坑夫中常備者ハ僅少ニシテ臨時雇ハ近隣ノ農民トス壯年ヲ多數トシ其他若ノ者尠カラズ甚シキハ十二三歳ニシテ苦役ニ服スル者アリ朝ハ六時ヨリ夕七時過迄晝食時間ヲ加フレバ十二間以上ニ及ビ不潔ト

苦役ノ中ニ有リ苛酷ノ狀甚シ

賃金 事務所直屬ノ者ハ年金ニシテ支那一般商店ノ式ニ據リ各技匠ハ月給或ハ其工程ニ按シ工賃ヲ支給シ食事ハ炭坑持トス即チ左ノ如シ

櫃	ハ	メ	日給	大洋四角九分	
坑内	サ	ラ	エ	一角六分	
斜坑及	堅	坑	一尺ニ付	五角五分	
炭	カ	ツ	キ	一角九分	
水	汲	者	同	八分五厘(子供)	
馱	者	同	同	七分一厘(同)	
車	押	者	同	八厘(同)	
精	選	者	同	五分五厘(同)	
炭	カ	ツ	キ	見習	
雜	工	同	月給	七角七分	
塊炭	一萬斤	掘出しに付	四角六分	粉炭同量に付	二角八分二厘

モ外界ノ影響ヲ受ケタル傾ナキモ自發的ニ賃金等ヨリ群集的罷工ニ似タル風潮ヲ生ジ坑夫ノ應募者ヲ減ジ從テ出炭最減少シ附近ノ需要ニ逼迫ヲ來シ諸般ノ事業ニ打撃ヲ與フル等惡化ノ風アルヲ以テ當時者モ極力其點ヲ緩和スベク協議中ナリ納稅 稅金ハ縣稅局ヨリ分局ヲ設置シ其出炭量ヲ查シ月計ニシテ赤峰本局ニ報告シ納稅セシムルモノナルガ石炭一噸(千六百斤餘)ニ對シ大洋五角ヲ徵シ礦區ハ十噸餘ナルガ礦區稅蒙古王府ニ納ムル租子其他ニテ一年銀子四百兩(一兩ハ大洋一元二角餘)ヲ納ムト云フ

炭質及炭價 炭質ハ蒙古地誌中ノ分析表左ノ如シ

揮	發	分	九・〇〇〇	
灰	分	二九・〇〇〇		
硫	黃	分	〇・九一九	
固	定	炭	素	三一・六〇〇
發	熱	量	四・四八九「カロリー」	

此炭ハ濕氣ヲ味ビ風化シ易キヲ以テ貯炭不可能ナ

リ炭價ハ山元ニ於テ塊炭千斤ニ付大洋二元五角五分(最近同三元ニ騰貴セリ)粉炭ハ同二元ナリ營業成績 事務所及炭坑ニ使役人員ハ約二百五十名トシテ一日ノ經費約大洋ノ二百元ヲ要シ出炭量五萬斤内外トシテハ毎日缺損ナリ旺盛期トナリ一日三十萬斤内外ノ出炭量アルニ至レバ從業員ハ隨テ増加スルモ一日裕ニ七八元ヲ賣揚純益ヲ得ト云フ故ニ純利益ヲ得ルハ冬季前後ノ七箇月餘ニシテ夏季ヲ挾ム半年ハ殆ド現狀維持或ハ缺損時期トナリト云フ而シテ此近年ハ石炭ノ販路モ漸張シ工夫ノ操縦宜ヲ得レバ益々有望ナリト云フ

◎東元寶山炭礦

東元寶山炭礦ハ建昌營子ノ平原及舍利鳴河ヲ隔テ、西元寶山ヨリ東北約二十五支里(或ハ二十支里トモ云フ)ノ地點ニ在リ西元寶山ニ平行セル一丘隔東元寶山ノ西南斜面ニ在リ當地方ハ西元寶山ニ比シ尙長キ歴史ヲ有シ開礦後已ニ二百年餘ヲ歴シ當

(以上、赤峰領事館ノ報告ニ據ル)

時ハ同山ノ更北斜面在リタルガ漸南シテ現在ノ地點ニ來リタルモノナリト云フ純然タル土法ニヨリ小作セルモノナリ全山ニ斜坑二豎坑四アリ四人ノ各箇經營ニ係ル土人ノ言ニ據レバ皆地下十四丈下レバ湧出スル水多ク排水裝置ナキヲ以テ夫ヨリ以下ニ掘下グルヲ得ズシテ稼業セル部分ハ炭層ノ上皮ニ過ズ泥炭ニ等シキモノガアルガ出水ノ地點ヨリ以下ノ炭質ハ西元寶炭ヨリ良好ナリト云フ通風ノ裝置ナク西南風ノ日ハ全然稼業不可能ナリト探掘用具ハ西元寶山ニ同ジ

四人各箇ノ意思ニ因リ殆ド姑息ノ手段ニ據ルヲ以テ少シク探掘スレバ遺棄シ各所ニ作業ノ跡多ク現在ノ土法ニテ水多クレバ一坑ニ付永久ニ維持繼續スルコト不可能ニシテ殆ド論ズルニ足ラズ一日ノ出炭量全山ニテ一萬斤ニ充タズ重ニ東方小哈拉道口小河沿方面ノ供給トス時ニ馱子ニテ赤峰ニ來ルモノ有リ又石炭ノ價格西密ニ同ジ

◎露蒙金鑛採掘契約

外蒙活佛ガ露人ノ使喚ヲ受ケテ中央政府ヨリ獨立シタル後露國ノ野心家ハ一様ニ外蒙政府ノ顧問トナリ一切ノ實權ヲ掌握セリト云フ、最近外人ノ傳フル所ニ據レバ庫倫政府ノ財政顧問哥金斯夫ハ圖什、圖業汗部ノ某旗ヲ調査シテ一箇處ノ金鑛ヲ發見シ未探掘ノ箇所ハ特ニ外蒙政府ニ對シ露人ノ探掘ニ歸セシメントヲ商議シ既ニ去月哥金斯夫ト外蒙政府トノ間ニ於テ契約ニ調印セラレ其內容左ノ如シ

- 一、外蒙政府ハ該山ノ探掘權ヲ哥金斯夫ニ讓渡シ其ニ由リテ株式募集ノ上探掘スルコト
- 二、哥金斯夫ハ將來該鑛山ヲ探掘シ若シ利益アルトキハソノ純益ノ百分ノ三十五ヲ外蒙政府ニ讓與スルコト
- 三、外蒙政府ハ會計検査員ヲ派シテ一切ノ帳簿ヲ

検査スルコトヲ得

四、外蒙政府ガ該鑛山ヲ哥金斯夫ニ讓與シタル後哥金斯夫ハ露貨一百萬元ヲ無利子ニテ外蒙政府ニ貸與スルコト

◎外蒙ニ大金鑛發見説

上海タイムスノ北京通信ニ曰ク政府要路者ノ言ニ據レバ最近露國人ハ外蒙古ニ於テ大金鑛ヲ發見シ其區域ノ廣大ニシテ合金量ノ豊富ナルコトハ阿拉斯干ノ金鑛ト相伯仲セリト、露國政府ハ此事ニ對シテハ尙秘シテ公表セザルモ「カラハン」ガ中露交渉ニ於テ急ニ強硬ニシテ決烈ノ態度ヲ示セルハ此ト最モ關係アリト云フ又露政府ガ外蒙ノ金鑛發見ニ就テハ之ヲ嚴秘ニ附シ「カラハン」ガ此事ヲ知レルモ亦數日前ニシテ中國ハ某方面ヨリ之ヲ探聞シタリ、露人ガ蒙古王ニ對シ契約ノ取消ヲ拒絶シタルハ此事ヲ以テ之ヲ爲スノ原因ナルガ如シ蓋シ露人ガ若シモ華人ヲ欺瞞シテ露蒙間ノ契約ヲ保

持スルヲ得バ露人ハ蒙古ニ於テ悉ク其富源ヲ利用スベキナリ、「カラハン」ガ目下交渉ノ恢復ヲ希望セズ其態度ガ一箇月以前ト遙ニ異ルハ其中ニハ必ラズ重要ナル原因アルベシ、露人ガ外蒙ヲ占領シテ以來惡事ヲ擅ニシ家畜、店舗ヲ掠奪シ又ハ鑛産ヲ壟斷スル等外蒙ノ富源ニ對シテハ何ゾ輕ンジテ之ガ放棄ヲ肯ズベキヤ、「カラハン」ハ外蒙ニ駐屯スル露兵ハ僅ニ百人ニ過ギズト云ヘルモ此等ハ專ラ衛兵ヲ指シテ云ヘルモノニシテ其實露西亞ノ過激派ガ外蒙ニアリテ富源ヲ開拓セルハ固ヨリ皆赤軍護衛ノモトニアリ此種ノ赤軍ガ各處ニ散在セル數モ亦僅少ニアラザルナリ、中露交渉中ニ於テ條文ヲ閣議ニ提出セントスル一日前財政總長王克敏ハ會々或事情ノ爲メニ道勝銀行ニ赴ケリ「カラハン」ハ其ハ中露交渉ニ障害アリト云ヘルモ王ガ閣議中契約サレントスル草案ニ對シテ反對セルハ即チ陸軍總長ニ同情ヲ表セルモノナリ、カ氏ガ中露

交渉澁滞シテヨリ毫モ交渉ヲ恢復スルノ誠意ナキハ即チ外蒙ニ於テ發見セル金鑛ノ一事ニ外ナラザルナリ、云々

▲西比利亞

◎露領及北滿產石炭ノ販路ト上海市場

沿海州經濟事情ニ據レバ極東爲政者ハ目下國民經濟ノ復興爲替相場安定ノ唯一政策ハ輸出貿易ノ振興ニアルトシ其ノ方面ニハカナリノ研究ヲ爲ジテ居ル左記ハ極東露領及北滿產石炭ノ販路ニ對スル考究ノ一節ナリ

元來沿海州ニ近接セル重要外國市場ハ北支那デハ哈爾濱デアリ南支那デハ上海デアル處カ極東國有企業例ヘバスーチャン炭坑ズフーン褐炭坑赤東マツチ工場等ノ製品餘剩額ハ必然海外ニ輸入サルベキデアルガ目下沿海州炭ガ之ノ二大市場ニ如何ナ

ル需要販路ヲ有スルカヲ比較考究セントスルノデアル

今日迄沿海州炭特ニスーチャン炭ノ海外需要市場中哈爾濱ハ唯一ノ市場デアツタノデアアルガ今當市場需要額ノ大要ヲ示セバ次ノ如クデアアル

哈爾濱工業地方(安達縣ヨリ阿什河驛マデ) 一〇、〇〇〇、〇〇〇布度
東支沿線其ノ他地方 二、〇〇〇、〇〇〇同
東支鐵道消費高 二二、〇〇〇、〇〇〇同
合 計 三四、〇〇〇、〇〇〇同

該數中スーチャン炭坑生産力ノ限度ニ鑑ミレバ東支沿線輸出可能額ハ五、四〇〇、〇〇〇布度ナルモ實際東支鐵道トノ契約ニヨレバ東部線二機關庫ノミヲスーチャン炭坑デ供給スル筈デアアルガ故ニ一九二四年ノスーチャン炭需要額ハ一、八〇〇、〇〇〇布度ガ本當ナラム即殘額三、六〇〇、〇〇〇布度ハ哈爾濱及其ノ他地方デ需要サル總額デアアルニ哈爾濱地方ハ撫順炭ガ其ノ地理的關係ヨリ優位ニアル爲其ノ競争到底困難ナルベク又西部線地方ハジ

ヤイノル炭ガ多少ナルトモ後貝加爾炭ノ輸入ト相俟ツテ之モトテ「スーチャン」炭需要ノ見込ガ無イカラデアアル

サテ今後沿海州炭ガ哈爾濱市場ニ其ノ販路ヲ擴大スルカハ不可能ノ方デ確實デアラウ東支鐵道ハ石炭採掘ヲ企圖シ目下鶴立、馬橋河、密山諸炭坑ノ經營問題ニ腐心中デアアル

地質學者アーネルト氏ノ調査ニヨレバ鶴立崗炭坑ハ炭層ノ厚二乃至六「サージエン」ニ達シ炭質燃滓少ク發熱量ハ六、八〇〇乃至七六〇〇「カロリー」デアアル現今採炭ハシテ居ルモノノ至ツテ原始的方法ナルガ故ニ其ノ採炭量ハ一、五〇〇、〇〇〇布度ニ過ギナイ勿論此ノ如キ採炭額デハ何等經濟的意義ハ有シナイトスルモ投資サヘスレバ今後ハ東支鐵道並沿線工場需要ニ相當其ノ地位ヲ占ムルデアラウ

馬橋河、密山炭坑ハ炭層厚ハ一〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇「サージエン」ニシテ其ノ採炭ハ何等ノ困難

ナク炭質ハ硬ク良質ノ「コークス」トナリ燃滓ハ少ク今其分析ノ結果ヲ示セバ左ノ如シ

水分	一・〇〇	二・〇〇%
揮發物	二七・〇〇	三〇・〇〇%
コークス	六一・〇〇	六五・〇〇%
灰分	四・〇〇	一〇・〇〇%
硫黃	〇・〇〇	〇・三%
發熱量	七八〇〇	「カロリー」

而シテ東支鐵道ハ他會計ト合辦デ該炭坑ヲ經營セント畫策中デアアル以上二炭坑ハ今後東支沿線ヨリ沿海州炭ヲ徹底的ニ驅逐スルデアラウソハ此ノ第一炭坑ノ炭質ハ沿海州ノ何レノ炭ニモ優リ又勞銀ノ低廉ナル支那勞働者ヲ使用スレバ其ノ價格モ引イテ安價ヲ免レナイガ故ニ沿海州炭ノ東支沿線地方ニ於ケル將來ハ全ク悲觀スベキ状態ニアル上海ハ南支那ノ工業中心地デモアリ又東洋唯一ノ貿易港デアアル故ニ其ノ石炭消費高ハ莫大ナル數字ニ達スル最近ノ調査ニ依レバ一週間ノ需要額ハ開平、山東炭約八〇、〇〇〇噸日本炭約三〇、〇〇〇噸

噸デアル

(一) 上海公立發電所	石炭	三、〇〇〇噸	一晝夜
(二) バターフィールド、スワイヤー汽船會社	同	一〇〇,〇〇〇同	
(三) ロベルト、ドラール汽船會社	同	一〇〇,〇〇〇同	
(四) 上海水道會社	同	四〇,〇〇〇同	
(五) 滬寧鐵道會社(上海機關庫)	同	一〇〇,〇〇〇同	
(六) 米國汽船供給所	同	一〇,〇〇〇同	
(七) ドツドウェル汽船會社	同	五〇,〇〇〇同	
(八) アル、フアンネル汽船會社	同	七、〇〇〇同	

然ラバコノ上海市場ハ沿海州炭ニ其ノ販賣ヲ許與スルデアラウカ又當市場ニ石炭ニ餘剩ガ生ジテ來ルト競争ノ爲其ノ價格ノ低落ヲ見ナイダラウカ勿論沿海州炭内スーチャン炭ハ炭質ニ於テ日本ノ優良炭ニ非常ニ近い故ニ比較的少量ニ此ノ種程度炭ガ上海市場ニ消費サレル點カラシテ上海市場ニ「スーチャン」炭ノ販路ヲ見出スニ充分デアラウ普通「スーチャン」塊炭ハ其ノ炭質ニ付テハ非常ニ日本炭ト相似テ居ル所ガ日本炭ハ現今上海デハ小口取引デ一噸一二、五一一二兩大口取引デ一〇一

一一兩デアル勿論「スーチャン」炭ハ十分此ノ價格デ引合フモノデ最初當市場ニ紹介スル爲ニ幾分廉價デ販賣シ以テ其ノ灰分ノ少キ事ニ一般ノ注意ヲ惹付クベキデアアル更ニスーチャン炭ノ普通塊炭以外ニ上海市場デ非常ニ販路ノアルモノハ無煙炭デアルコレハ普通煖爐用其ノ他鑄鐵用ニ使用サレルモノデ目下上海市場デハ一噸ニ付小口取引二〇兩デアル故ニ「スーチャン」炭ハ之ノ方面ニモカナリノ販路ヲ有スルニ違ヒナイ更ニ一般ニ「スーチャン」コークスハ非常ニ其ノ見本デ好印象ヲ與ヘモシ價格一噸ニ付二〇兩ナラバ一月二〇〇〇噸ノ販賣ハ易々タルモノデアアルガ「スーチャン」デ現在作業スル整備ハ全ク幼稚ナルガ爲以上ノ價格ニ引下グル事ハ到底不可能デアアル又上海市場デハ褐炭ノ販路ハ尨大ニシテ之ガ爲小支那工場主ハ盛ニ上海極東國家貿易部出張所ニ浦鹽ヨリ褐炭輸出ノ可能ヲ指摘シ其ノ要請ヲ仰グ事

數回ニ及ンダ上海デ目下一噸ニ付六一七兩デアルカ多「タブリチャンスキ」炭坑及「ズブーニー」炭坑ノ褐炭ハ充分其ノ販賣ニ應ゼラレルデアラウ

上記ノ説明デ上海市場ハ充分「スーチャン」炭ノミナラズ其ノ他沿海州炭ノ販路ヲ保證スル事ガ出來ヤツ乍然一般ニ其ノ價格ノミナラズ其ノ炭質ニ於テモ充分ニ努力スベキ必要ガアル即上海向炭ハ特ニ塊炭ナラバ決シテ粉炭ノ混合物ノ無イ事及選炭ノ場合ハ全ク他種ノモノヲ入レテハナラナイ其ノ外「スーチャン」塊炭ハ特ニ吟味ノ必要ガアルモシ混合物等ガアル場合ハ購買者ノ第一印象ガ非常ニ惡イ爲遂ニ「スーチャン」塊炭ノ名聲ヲ失墜シテシマツト

◎極東ノ鑛山事業

極東國家計畫部ノ報告ニ依ル極東鑛山事業狀況次ノ如シ

一、金 鑛

最近ニ於ケル登録採金額ヲ鑛山管區毎ニ示セバ次

ノ如シ

沿貝加爾管區	一九三三年度	三、〇〇〇噸	一九三二年度	三、〇〇〇噸
後貝加爾管區	同	三、〇〇〇噸	同	三、〇〇〇噸
黑龍管區	同	三、〇〇〇噸	同	三、〇〇〇噸
ゼーヤ管區	同	八、〇〇〇噸	同	七、〇〇〇噸
アレーヤ管區	同	二、〇〇〇噸	同	二、〇〇〇噸
沿黑龍管區	同	七、〇〇〇噸	同	七、〇〇〇噸
沿海管區	同	七、〇〇〇噸	同	七、〇〇〇噸
計	同	三〇、〇〇〇噸	同	三〇、〇〇〇噸

次ニ極東ニ於ケル各鑛金所ニ於テ鑄金セラレタル額ヲ擧グレバ次ノ如シ

全極東ニ於ケル	一九三三年度	一、九三三噸	一九三二年度	一、九三三噸
其内知多鑛金所	同	一、八〇〇噸	同	一、八〇〇噸
ニ於ケルモノ	同	一、二〇〇噸	同	一、二〇〇噸

各種ノ資料ヲ綜合スルニ外國ニ流出シタル金額ハ一九二二年度ニ於テ約二、五〇〇「ブード」、一九二三年度ニ於テ二、三三七「ブード」ニ達スルモノノ如シ、而シテ全極東ニ於ケル總採收金額ハ一九二二年度ニ於テ三、二二五「ブード」、一九二三年度ニ於テ四、七五「ブード」ニ達スベク想像セラル、斯クノ如ク極

東ニ於テハ漸次採金額ヲ増加シアリテ一九二三年度ニ於テハ戰前ヨリモ二五%ノ増加ヲ示セリ砂金ノ外國流出ノ原因ハ(一)國境ノ接近シアルコト(二)金買上價格ノ低キコト(三)採金區ニ對スル物資供給ノ不足(四)採金地方ニ於ケル露國製物資ノ高價ナルコト(五)之等採金地方ニ於ケル露國製物資ノ高價ナルコト等ナリ極東各採金地方ニ於ケル勞働者ノ狀況次ノ如シ

採金地方別	勞働者數	上記内外國人	外國人ノ割合
沿貝加爾管區	六三	三〇	四八%
後貝加爾管區	七五七	三八一	三七%
黑龍管區	一、二七五	九五五	七五%
ゼーヤ管區	一、四四一	一、二〇八	八四%
ブレイヤ管區	八六〇	八六〇	一〇〇%
沿黑龍管區	九五〇	七三	八%
沿海管區	一三三	六	五%
計	二、三六四	一、六九一	七二%

(外國人トハ「ロシア」人ヲ云フモノナルベシ)

一九二二年度ノ全極東採金區ニ於ケル勞働者數ハ一八、九九七人ニシテ内支那人及朝鮮人ハ六九%

一九一六年 七二、二〇〇、〇〇〇「ブード」
一九二二年 五七、三〇〇、〇〇〇「ブード」
一九二三年(九箇月間) 四六、六〇〇、〇〇〇「ブード」(本年度ハ個人炭坑ヲ含ム)
而シテ各縣別採炭額ヲ示セバ次ノ如シ

縣別	一九二三年(九箇月間)		一九二四年(豫定)	
	採炭額	販賣高	採炭額	販賣高
後貝加爾	一五、四〇〇、〇〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
黑龍	三、一〇〇、〇〇〇	二、八〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、九〇〇、〇〇〇
沿海	一六、〇〇〇、〇〇〇	三、九〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇	三、九〇〇、〇〇〇
計	三四、五〇〇、〇〇〇	八、四〇〇、〇〇〇	三五、〇〇〇、〇〇〇	八、三〇〇、〇〇〇

而シテ一九二四年度ニ於ケル豫定販賣額五千三百萬「ブード」中

イ、沿海縣ヨリ滿洲市場へ 五百四十萬「ブード」
ロ、後貝加爾ヨリ滿洲市場へ 三百六十萬「ブード」
ハ主トシテ鐵道ノ消費ニシテ普通消費額約四千二百萬「ブード」ナルベシ
蘇城炭坑ヲ除ク其他ノ炭坑ハ凡テ各々地方的意義

ナリキ、而シテ之ヲ後貝加爾管區ニ就テ見ルニ一九二三年度ニ於テ勞働者總數七、五八七人、内支那人、朝鮮人八三七%ニ下レリ

斯クノ如ク一九二三年度ニ於テハ外國人ノ勞働者數ヲ減ゼリ之レ地方官憲ガ支那人ノ旅券ニ關シ各種ノ制限ヲ設ケ、且ツ其他支那人ノ從事ニ關シ各種妨害ヲ加ヘラレタルガ爲ニシテ從ツテ奧地特ニ「アヤザロ」「ウリユムスキー」「タムクトムスキー」「ゼイスキー」及「ブレイヤ」地方ニ於ケル支那人勞働者ノ數著シク減ジ惹イテ採金額ニ甚シキ影響ヲ及ボセリ

支那人勞働者ハ金採收事業ニ充分ナル經驗ヲ有シ露人ニ比シ有利ナルモ彼等獨特ノ「金坑氣質」ハ之ヲ採金事業ニ從事セシムル爲多大ノ慮ヲ費サザルヲ得ザラシム

二、石炭

最近各年次ニ於ケル極東ノ出炭高次ノ如シ

ヲ有シ其附近鐵道ノ燃料ヲ供給シアリ、蘇城炭ノ哈爾濱市場ヘノ販路ハ將來發展スベク「チエルノフスキー」炭ノ滿洲ヘ對スル輸出ハ極メテ尠少ニシテ一時的現象タルニ過ギズ

極東領土内ニ於ケル石炭ノ轉送ハ有利ナラズ、後貝加爾炭ノ東送ハ事實不可能ニシテ之ヲ西部ニ送ルニ於テハ「チエレモホーフスキー」炭ト利害相衝突ス

三、冶金工業

「ペトロフスキー」鑄鐵工場ハ極東ニ於ケル唯一ノ冶金工業事業ニシテ本工場ニ於ケル生産狀況次ノ如シ

	一九一六年	一九二三年	一九二四年
「バヤヤンスキー」鑄鐵工場ニ於ケル採鐵額	—	—	豫定
工場波值段	—	—	七哥七
鑄鐵生産額	二、七五〇「ブード」	一〇、七一八「ブード」	一一、〇〇〇「ブード」
鑄鐵製品	—	三、一三三「ブード」	三〇、〇〇〇「ブード」
鑄鐵值段	四〇哥	八四哥	九〇哥
鑄鐵製品值段	一留三哥	二留六哥	二留六哥

極東ニ於ケル鑄鐵及其製品需要額ハ約百萬「ブード」ナルモ經濟能力ノ貧弱ナルハ現在ノ購買能力ヲ著シク減退シアリ戰前本工場ハ「イルクツク」ヨリ浦鹽迄ノ間及東支沿線地帯ニ於ケル需要ニ應ジアリタリ

四、銀及鉛

銀及鉛ニ關スル企業ハ目下ノ處極東ニハ存在シアラズ然レドモ近キ將來ニ於テ沿海縣「テチウヘ」(テチウヘ山)ニ之ヲ起スベク豫定セラレアリ本鑛山一年ノ生産額ハ鑛石六萬乃至百萬「ブード」ニシテ其含有量ハ鉛六乃至八%、亞鉛一三乃至一五%、銀〇・〇一五%ナリ、其埋藏量ハ實際額二千三萬「ブード」探鑛可能額八十萬噸、概算額二百十三萬五千噸ナリ

本鑛山ノ製品ハ單ニ極東地方ノ需要ニ應ズルノミナラズ主トシテ外國即チ日本及太平洋沿岸諸國ニ輸出セラル、鉛ハ精鍊セラルルモ亞鉛ハ原鑛ノ儘

輸出セラル、尙近キ將來ニ於テ外國資本ノ援助ノ下ニ「ネルチンスク」銀鉛鑛山復活セシメラルベク、其一箇年ノ生産額ハ百五十萬乃至三百萬「ブード」ト豫想セラル、其埋藏量ハ約二十億「ブード」ニシテ内鉛約一億「ブード」、亞鉛約一億「ブード」、銀約四十萬「ブード」、金約一千七百五十「ブード」ナリ

五、ウオルフラム

「ウオルフラム」鑛ノ探掘ハ目下行ハレアラザルモ近キ將來ニ於テ之ガ復活ヲ豫想シ得、然レドモ本鑛石ニ對スル國內ノ需要甚シク少キ爲其價格ノ如キ「ブード」七乃至八留ニ過ギズ、故ニ本鑛業復活ノ爲ニハ輸出ノ増進ヲ計ルノ要アリ、戰前「ウオルフラム」ノ探掘高ハ約五千「ブード」ナリキ (露亞時報五十四號ニ據ル)

◎沿海縣ニ於ケル鑛業現況

金鑛業 縣鑛山局ノ縣人民經濟委員會ニナシタル

報告ニ依レバ沿黑龍地方金鑛業ハ主トシテウドリ

●ハムリンスキト、アムグ●ケルビスキー及ニコラヘスキー地方ニテ經營セラレ其採金方法ハ概ネ手掘式ナルモ「ウドリ・リムリンスキー」地方ニ於ケル「ウドリ」金鑛會社ハ機械式ニ依リ探掘シツツアリ今其採金高ヲ見ルニ

八月中

▲ウドリ・リムリンスキー地方	
私 營	五一「フント」四〇「ゾロトニツク」三四「ドーリ」
國 營	四五同
合 計	一〇同
▲アムグノケルビスキー地方	
私 營	八同
國 營	九一同
合 計	六〇同
▲ニコラヘフスキー地方	
私 營	八二同
國 營	一五同
合 計	九七同

九月中

▲ニコラヘフスキー地方	
私 營	三五同
國 營	一五同
合 計	五〇同
▲アムグノケルビスキー地方	
私 營	四同
國 營	二七同
合 計	三一同
▲ウドリ・リムリンスキー地方	
私 營	七同
國 營	五三同
合 計	六〇同

▲ウドリ・リムリンスキー地方

私 營	三四同
國 營	六八同
合 計	一〇二同
▲アムグノケルビスキー地方	
私 營	四五同
國 營	四〇同
合 計	八五同
▲ニコラヘフスキー地方	
私 營	七同
國 營	〇九同
合 計	一六同
▲ウドリ・リムリンスキー地方	
私 營	四四同
國 營	八九同
合 計	一三三同
▲アムグノケルビスキー地方	
私 營	六三同
國 營	四二同
合 計	一〇五同
▲ニコラヘフスキー地方	
私 營	三〇三同
國 營	一七同
合 計	三二〇同

同月中ノ採金總高

一九二三年ノ採金總高ハ
ウドリ・リムリンスキー地方 二一四「フント」九〇「ゾロトニツク」六「ドーリ」
アムグノケルビスキー地方 四四同 八九同 七一同
ニコラヘフスキー地方 六三同 四二同 一〇五同
合 計 三〇三同 一七同 三二〇同

右期間内ニ於テ採金總額ニ對スル國庫納入額ハ三二「フント」三四「ゾロトニツク」二五「ドーリ」ニシテ金鑛業者ノ納入シタルデシヤチン税ハ九、四四二留割増税ハ一、五四八留ナリ又右三鑛區ノ國家經營ニ依ル採金額ハ二六「フント」九〇「ゾロトニツク」七二「ドーリ」ナリ

極東革命委員會及同經濟評議委員會ノ合同會議ノ

席上金鑛業ヲ益々發達セシムル爲次ノ處置ヲ必要ト認メタリ

一 金鑛業ニ對スル税金ヲ減ズルコト 二 極東ノ實際採金高ハ相當多額ニ上ルモ比較的國庫ニ入ル高少キハ支那人ニ依リ支那領其他ニ密輸セララルニ基クモノナレバ之ヲ防グ爲國家ニ於テ市場相場以上ニテ之ヲ買上グルコト 三 支那人勞働者ヲ入ルコト 四 金ノ貯藏量ヲ大ナラシムル爲國家倉庫ヲ設置シ又之ヲ通ジテ必要ナル器具ヲ供給スルコト 五 利權トシテ個人企業家ニ之ヲ貸下グルコト

炭鑛業 蘇城炭坑ガ豫期ノ成績ヲ擧ゲ得ザリシ爲メ諸所ニ小規模ナル炭鑛業續出シ一九二三年一月一日現在ノ調査ニ依レバ炭鑛數二十三坑ニ達シタリ而シテ是等ノ多クハ大資本ヲ投ズルコトナク貧弱ナル鑛地ニ於テ鮮支人勞働者ヲ使用シ採掘セシ爲市場ニ不健全ナル競争ヲ惹起シ大企業家ノ投資

ヲ妨害シタリ

鑛山監督局ハ斯ノ如キ現象ヲ以テ炭鑛業ノ發達ヲ妨害スルモノトナシ是等小規模ナル炭鑛業者ニ壓迫ヲ加ヘタル結果十月一日現在ハ十四坑ニ減ジ其内蘇城及「スイフウン」炭坑ハ國營ニ屬シ他ハ皆私營ニ屬シタリ

沿海縣内ニ於テ炭鑛區トシテ擧ゲ得ベキモノハ八十五鑛區(總面積六、八七九「デシヤチン」)アルモ其内開發採掘セラレタルモノハ二十五坑ニ過ギズ炭質ニ關シテハ褐炭(發熱量四、五〇〇「カロリー」)「コークス炭(發熱量七、二〇〇「カロリー」)及瓦斯炭等アリ褐炭ハ安價燃料トシテ廣ク鐵道及家庭ニ需要セラレ「コークス」炭ハ輸出向トシテ歡迎セラレ各炭鑛ノ石炭埋藏量ヲ見ルニ(單位百萬布度)

蘇城コークス炭	九四二
ズワフニウイ褐炭	一、五〇〇
ウケロフスキ	五〇〇
ナアエジンスキ	二〇〇

タアリチヤンカ

一七〇

一九二三年ノ九箇月間(一月一日—十月一日)ノ

全炭坑炭掘高ハ

コークス炭	一三、二〇二、六六八布度
褐炭	一五、〇三九、一七四
合 計	二八、二三九、八四二

内國營炭坑ノ分	一五、五三一、五二〇
私營炭坑ノ分	一二、七〇八、三二二

又此期間ノ石炭販賣高ハ一八、四四二、四九六布度ニシテ其分配狀況ヲ見ルニ

▲國營炭坑ノ分

國家施設	七、七四〇、一三九布度
一般市場	六五二、二六九
東支沿線	一、五一五、五二二
計	九、九〇七、九三〇
其 價 格	一、七七九、七二六留八九哥

▲私營炭坑ノ分

國家施設	四、九一一、〇二二布度
一般市場	二、九三一、二三四
東支沿線	一一五、四二五
海外輸出	五七六、八九〇

合 計

八、五三四、五六六

一九二三年夏極東地質協會ハウエルフネ・スイフ

ンスキー炭鑛區ニ詳細ナル調査ヲ施シタルガ其結果ニ依レバ同炭鑛區總面積千平方露里ニ達シ其三分ノ二厚サ「サージエン」ニ達スル二條ノ豐富ナル炭層ヲ有ス同炭鑛區、炭層ノ深サ二〇〇—二五〇「サージエン」ヲ有ス豐富ナル炭層ハ長サ五一五露里廣サ三一〇露里ニ及ブ

炭質ハ主トシテガス炭ニシテ發熱量六、五〇〇—七、〇〇〇「カロリー」ナリ一部分ノモノハコークス炭ニシテ其發熱量ハ六、八〇〇—七、二〇〇「カロリー」ナリ同炭鑛區ハスイフン河ニ依リ二箇所ノ獨立地域ニ分タレ即チ其一ハ北方又ハ左岸地帯ニシテ總面積二〇〇平方露里ヲ有シ石炭埋藏量二億五千萬噸ト稱セラレ其二ハ南方又ハ右岸地帯ニシテ總面積四〇〇平方露里ヲ有シ其埋藏量

ハ五億噸ト稱セラル新炭鑛ハ烏鐵ニ接近セルヲ以テ勞働者乃至機械ノ搬入又ハ採炭ノ搬出ニ好都合ニシテ蘇城炭坑ト共ニ最有力ナル炭坑ノ一ナリ
一九二三—一九二四年度ノ沿海縣ノ石炭需要高ハ三二、七三四、六六四布度ニ達スベシ縣鑛山局ハ此數字ニ基キ左ノ如キ採掘計畫ヲ樹テタリ

(單位千布度)

- 蘇城炭 一一、八〇〇
- 而シテ之ガ販賣計畫ハ、
- 國家施設 一一三、〇〇〇
- 一般市場 二、八〇〇
- 東支沿線 五、四〇〇
- 輸出 三、六〇〇
- ズイアンヌイ炭坑 七、四五九

全部國家施設又ハ國家企業ニ充當セラルベシ
私營炭坑 一一、四七五、六六四布度
一部ハ國家施設一部ハ一般市場ニ配分セラルル豫定ナリ

發電所員三十五名ナリ、炭坑ノ内外ニハ輕便軌條ヲ布設シ採掘シタル石炭ハ炭車ニ積載シテ運搬シ得ル設備アリ而シテ坑内運搬及採炭ニハ先山、後山ノ區別ヲ設ケズ各一組ノ採炭夫ニ於テ自己ノ組ノ切り出セル石炭ヲ坑口迄搬出シ坑口ヨリ山麓迄ハ坑内ヨリ人力ヲ以テ搬出セル炭車ヲ數輛ヅツ馬匹ヲ以テ曳引シ山麓ヨリハ蒸汽捲上機ニヨリ斜面ヲ曳キ上ゲ峠ヲ降ル際ニハ「ブレニスベルク」式制動機ヲ使用シテ下降スル設備ヲナセリ、歸リ車輛ニハ坑内用木材ヲ積載シ來ルモノナルガ其車輛ノ疾走スル速度極メテ早ク恰モ矢ヲ射ルガ如シ、斯ノ如クシテ採掘セラレタル石炭ハ坑口ヨリ貯炭場迄約一露里ノ間ヲ運搬セラル、モノナリ、技術部長ノ談ニ依レバ炭層ハ山ノ前面ニモ分布セル故此處ニ開坑シテ採掘ヲ開始シタランニハ蒸汽捲揚機ヲ使用スルガ如キ不便ナク採掘スルヲ得タルナランニ前任技術部長ガ計畫ニ大ナル過失ヲ爲シタ

◎露領黑龍縣「ギブデインスキー」石炭坑現況

一九二三年中ニ此ノ炭坑ヨリ採掘シタル石炭ノ總數量ハ三七七萬三、四六三布度ニシテ一箇月ノ採掘量ハ二〇萬七、四〇四布度乃至四三萬四、二三三布度ナリ、本炭坑ノ最モ多量ニ採掘セラレタル年ハ一九一九年及昨年ニシテ一九一九年度ニ於テハ三七三萬一、〇〇〇布度ノ出炭ヲ見タリ
本炭坑事務所ハ本年三月一日烏蘇里鐵道ト賣炭契約ヲ締結シ毎月三五萬布度ノ石炭ヲ同鐵道ニ供給スルコト、セリ而シテ又同契約ニ於テ同鐵道ハ前記規定數量ノ二割五分迄ヲ增加注文ヲ發スルヲ得ルト共ニ七割五分迄ニ需用數量ヲ減ジ得ルコト、ナリ居レリト云フ
目下本炭坑ニ作業スル人員ハ主任技師以下排水係工作係、電氣係等ノ専門技術者及採炭勞動者ヲ合セ三百三十二名ナルガ其内採炭勞動者ハ百十七名

ル結果右ノ如キ不便ヲ來タシタルモノニシテ今更ニ計畫ヲ變更セントスレバ三萬留ノ費用ヲ投ズルヲ要スト、坑道ノ高サハ〇・九五「サーゼン」アリ落葉松ノ丸太ヲ以テ支柱ヲ作り厚サ二「ダイユム」(一「ダイユム」ハ〇・八三六寸ナリ)ノ松板ヲ以テ坑道ノ内壁ヲ蔽ヘリ、坑内湧水ハ電力排水唧筒ヲ以テ坑外ニ排出ス、又坑内ニハ電燈ノ設備アレドモ甚ダ暗クシテ通行者ハ別ニ蠟燭ヲ携帯スルヲ要ス、坑内通風設備ナク酸素ノ不足ニ基因シ蠟燭ノ火ハ消ユル有様ナリ(?)
炭層ノ厚サハ「サーゼン」ヨリ一・二五「サーゼン」アリ、一「サーゼン」以下ノ部分ハ稀ナリ「ライチハ」村ニ近キ處ニ於テハ炭層ノ厚サ二「サーゼン」乃至三・五「サーゼン」アリ而シテ又現在ノ採炭地ヲ距ルコト五露里ノ「ギブダ」河畔ニ於テハ炭層露出シ層厚二・二「サーゼン」有セリ

炭質ハ軟ラカク褐炭ニシテ専門家ノ謂フ處ニ依レバ第三紀以降ノ成生物ナリト
探掘作業ハ四人、六人及八人ヲ以テ各一組ト爲シ一晝夜二交代ニシテ作業箇所ノ困難ナルヤ否ヤニ從ヒ探掘賃金ヲ異ニスルモノナレ共其賃金ハ一立方「サーゼン」ニ付キ九留五十哥ヨリ十二留迄ニシテ一人一日ノ平均勞働賃金ハ一留九十哥以上トナル、而シテ一人一工ノ平均採炭量ハ〇・一六立方「サーゼン」即チ約一二四布度ナリ
探掘ノ結果、本炭層ノ總容積ハ七三萬四、八二五平方「サーゼン」ニシテ埋藏炭量ハ五億五千五百萬布度ナリト云フ。以上
因ニ、同炭坑ハ烏蘇里鐵道（從前黑龍鐵道ト稱シタリ）ニ沿フ「ブウレヤ」驛ヲ距ルコト西方約十五露里ノ地點ニ存シ「ブウレヤ」驛ヨリ炭坑迄ハ狹軌鐵道ヲ布設セラレアリ

◎西伯利亞鉛鑽石引取

鈴木商店ニテハ露國政府トノ契約ニヨリ「チ、ウヘ」ニ於ケル鑽石ヲ約四十萬圓ニテ讓リ受ケ本年三月中旬汽船大國丸及善久丸ニテ六千噸ヲ積出シ下關彦島亞鉛工場ニ輸送セシガ尙七千噸ノ鑽石アリ之ハ五六月中ニ全部引取ルコト、ナレリト

北支那方面

▲直隸省

◎小鑛業條例改正

農商部ガ民國四年七月十一日ニ公布セル小鑛業條例ハ數年來經驗ニ依レバ實施上障礙尠カラザルヲ以テ最近之ニ修正ヲ加ヘ各省ノ實業廳ニ通達シテ實施スルコト、ナレリト云フ該修正條例次ノ如シ
第一條 本條例ハ舊式ノ土窰或ハ經營ニ堪ヘザル大鑛產地ニ之ヲ適用ス

第二條 石炭探掘ノ申請ハ二百七十畝、其他ノ鑛

區ハ五十畝ニ滿タザルモノ小鑛ト稱ス

第三條 小鑛探掘ノ申請ヲナス者ハ其願書ニ鑛區

圖ヲ添ヘ鑛務監督署長ヲ經テ農商總長ニ小鑛探掘ノ執照下附ヲ申請スベシ

第四條 前條ノ鑛區圖ニハ左記ノ事項ヲ詳記スベシ
一、申請地ノ地名 二、申請地ノ面積 三、鑛

區境界線 四、四邊及隣接鑛區

第五條 小鑛執照ノ有効期間ハ發給ノ日ヨリ起算

シテ三箇年トス但鑛業ニ妨ゲ無シト認メタル者ハ其滿期前ニ延期ヲ申請シ規定ノ費用ヲ納付シ

小照ノ交換ヲ受クルコトヲ得

第六條 小鑛ハ外人ト合辦シ或ハ外資ヲ借用スルコトヲ得ズ

第七條 凡テ小鑛ハ規定ノ鑛區稅ヲ納付スル外ニ小鑛執照ノ下附ヲ申請スルトキハ左記各項ノ費

用ヲ納付スベシ

甲、炭鑛 一、二十畝ニ滿タザルモノハ五十元

二、五十畝以上百畝以下四十元 三、百畝以上二百畝以下六十元 四、二百畝以上二百七十畝以下ハ八十元

乙、其他各鑛 一、二十畝ニ滿ザルモノハ二十元 二、二十畝以上三十畝以下ハ四十元 三、三十畝以上四十畝以下ハ六十元 四、四十畝以上五十畝以下ハ八十元

丙、探掘ノ申請又ハ移轉ノ申請費ハ五元トス

第八條 小鑛人ニハ鑛業人資格審査ノ規則ヲ適用セズ

第九條 本條例第六條ノ規定ニ違背シタルモノハ

農商總長ハ其鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第十條 本條例公布後ハ民國四年七月十一日ニ公布セラレタル小鑛業暫行條例ハ即チ廢止ス

第十一條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎農商部ノ官鑛整理命令

農商部ニテハ各省礦山ノ成績良好ナラザルヲ以テ這般之レヲ統一整頓スベク次ノ如キ命令ヲ各省當局ニ發セリ

- 一、既ニ探掘ニ著セル官鑛ハ今日マデノ成績及ビ現狀ヲ報告スベシ
- 二、全省官鑛ノ營業狀況損益ノ實際竝ニ產額ヲ詳細報告スベシ
- 三、凡ソ全省官鑛ニシテ未ダ探掘ニ著手シナイモノハ法ヲ設ケテ開工スベク若シ資金不足ナレバ商人ト合同著手スベシ
- 四、全省官憲中目下作業ヲ停止シツツアルモノアレバ停止ノ理由ニ就テ詳細報告スベシ
- 五、全省官鑛ノ純益ハ資金償還ノ分ヲ差引キ全部ヲ保存シ置クベシ
- 六、全省官鑛ノ營業狀態ハ隨時報告シ勝手ナル處置ヲ取ルベカラス

ヲ如何トモスル事能ハザル狀態ナリキ然レドモ特種ノ費用及投資ヲ除外シテ本炭坑ノ營業狀態ヲ見ル時ハ一時ハ相當ノ利益ヲ擧ゲ得タル事ハ斷言シテ憚ラズ然レ雖余ハ茲ニ其生産費及炭價ノ詳細ニ亙リ計數的ニ説明シ得ザルヲ遺憾トス生産費ハ大體生産物ノ質及排水費等ニ依リ決定サルベク賣價ハ日ト共ニ變動ヲ免レズ最初本公司ノ石炭ガ市場ニ現レタル時ハ市價頗ル好況ナリシモ應テ同業者間ニ激烈ナル競争ヲ惹起シ本公司ノ生産品ハ其價格ノ下落ヲ餘義ナクサレ舊正以前ニハ最低價ニ落込ミタリ爾來市場ハ漸次恢復シ現在ニ於テハ其價格ノ昂騰ヲ見ルニ至レルモ而カモ尙本公司ノ有セル多量ノ在庫品ハ全部之ヲ市場ニ賣捌ク程度ニ達セザルヲ遺憾トス元來昨今ハ一年中ノ不況時代ナリモ尙其在庫品ノ消化ニ對シテ相當ノ自信ヲ以テ努力シツツアリ例年市場ノ活況ヲ呈スルハ八月以降ナルヲ以テ其以前ニ於テ效果ヲ擧グルニ至ラズ

七、全省官鑛ノ利益ヲ圖ル爲時ニ應ジテ會議ヲ召集シテ進行辦法ヲ討論スベシ

◎上海炭礦會社(門頭溝炭坑)營業成績

上海エクスプロレーション、アンド、デブロッツメント會社 (Shanghai Exploration and Development Co., Ltd.) 年次總會ハ去ル六月二十日上海黃浦灘一號ニ於テ R. S. F. ne Bain 氏司會ノ下ニ開催同議長ハ次ノ如ク報告セリ

昨年十二月三十一日ヲ以テ決算トセル過去半期間ニ於ケル門頭溝炭礦營業ニ於テ損失ヲ計上スルニ至リシガ右ハ當期間ノ大部分產出額少量ニシテ且二箇月ト云フモノハ全然作業ヲ停止セルニ原因セリ以上ノ如ク作業ヲ停止セシト雖排水其他現場ニ於ケル諸施設ハ是ヲ停止スルヲ許サザリシヲ以テ經費ニ於テ何等ノ減少ヲ來タサザル有様ナリ同年中兩期ニ於ケル營業停止ヲ防禦スル爲メニ有ユル手段ヲ講ゼル結果若干效果ヲ示シタルモ大體ニ於

トスルモ該季節ニ於テハ好成绩ヲ得ベシト信ズ

▲増資問題 本問題ニ於テハ重役ニ於テ慎重ナル考慮ヲ拂ヒタル結果提案セルモノニシテ目的トスル所本公司ノ財政狀態ヲ鞏固ニシ同業者間ノ競争ニ供ヘンガ爲ナリ該資金ノ運用ニ關シテハ市場ノ狀態等ニ充分ノ注意ヲ拂フベキハ勿論ナルガ石炭ノ輸送ヲ圓滑ニスル將來貨物自動車ヲ購入スル必要アルベシト思惟ス「コンセッション」ノ發展ニ就テ吾人ハ充分ノ考慮ヲ回ラシ其事業開始ノ速カナラン事ヲ期待セルガ技師ノ鑑定ニ依レバ同「コンセッション」ハ頗ル價值アルモノナリト云ヘリ最後ニ門頭溝礦ハ現在一日千五百噸ヲ取扱得ルニ過キザルニ願ミ今一層設備ヲ完全ニスル必要アルベシ

▲生産増加 前期總會以後本公司ノ生産ハ一日三百噸乃至五百噸又ハ六百噸程度ノ増加ヲ示セリ而シテ現在一日ノ取扱量ハ千五百噸程度ナルニ對シ技師長ハ更ニ其増加ヲ計畫シツツアリ二月中本公

司ノ生産額ハ減少セルガ此ハ舊正ニ依リ休日ノ續ケルニ因レリ茲ニ各位ノ注意ヲ喚起セザルベカラザルハ排水ノ問題ニシテ炭坑ヲ保護スル必要上巨額ノ經費ヲ投ズルモ是非之ヲ敢行セザルベカラズ同炭坑ノ掘下程度ハ平均三百二十呎ナルモ之ヲ五百呎程度ニ擴大スル計畫ヲ以テ作業シツツアリ而シテ現在四百二十呎ニ達セルモ目前ニ雨期ヲ控ユルヲ以テ一時其掘下ヲ停止セリ前總會以地下ノ諸設備ハ著々進シ地下ポンプ室及ステーブルヲ完成セル以外岩石ヲ打碎キテ二千三百三十七呎ノトンネルヲ作レリ現在薄層ノ作業ニ從事シツツアルガ其厚サハ二呎ナリ又最近A薄層ノ調査ヲナセル所其厚サ三呎程度ヲ有シB薄層ヨリモ良質ナリ而シテ目下尙薄層ニ對シ調査ノ步ヲ進メツツアルモ雨期ノ爲一時之ヲ中止セリ

▲勞働狀態 現在本公司ハ三交代八時間勞働ヲ實施シ居リ又作業工夫ニハ住宅及醫藥ノ設備ヲナシ

居レリ石炭需要季節ノ接近シ且最近近接地帯ニ鐵道ノ開通セル結果勞働者ノ缺乏ヲ感ジツツアルヲ以テ其缺乏ヲ補フ爲ニ最善ノ努力ヲ爲サザルベカラズ雨期二箇月間作業ヲ停止セル後先般一分間ニ二千ガロンヲ排水得ル新式電力ポンプヲ設備セルヲ以テ本年ノ雨期ニハ充分其能力ヲ發揮シ得ベク從ツテ本年ハ昨年ニ比シテ作業上便利ノ地位ニアリ

▲輸送問題 京綏鐵道ノ貨物列車不足ノ爲メ本公司ノ石炭輸送ハ本年二月迄非常アル困難ノ狀態ニ在リキ即チ同鐵道ノ本公司ニ對スル輸送供給能力ハ一日僅カニ二百五十噸ニ過ギザリシヲ以テ同炭坑ノ在庫高ハ急速ニ増加セル二月ニ至リ本公司ハ一日五百噸ノ輸送ヲ爲シ得ルニ至レリ而カモ不幸ニシテ該協約ハ永續スル事能ハザリシヲ以テ重役ハ乃チ本公司自ラ貨物自動車ヲ有セザルベカラズトノ結論ニ到著セル次第ナリ勿論本計畫ヲ實現ス

ルニ數十萬弗ノ資金ヲ要スベシ北京動力會社 (Beijing Power Company) ハ近時五千基ワットノ動力設備ヲ爲セルガ本公司ハ同會社ヨリ三箇所ノ獨立セル「ユニット」ヨリ供給ヲ受クル事トナレリ次デ臨時總會ヲ開催シ同公司ノ資本ヲ三百萬弗ニ増加スル事ヲ議決シテ散會

◎龍烟鐵礦ノ現狀

龍烟鐵礦ハ先年安福派要人陸宗輿、丁士源等ニ依リテ創業セラレ徐世昌段祺瑞等モ皆大株主ナルガ、政局變遷ノ影響ニヨリ現今ハ全ク事業ヲ休止シ居レリ、頃日北京ニ來タル該礦山職員某ノ現狀談ナリトテ支那新聞ノ報スル所次ノ如シ

『民國六年歐洲戰爭正ニ盛シナ頃鐵ノ需要遽増シ價格暴騰シタガ支那ノ大冶及比東三省ノ産額ニハ限リガ有ツテ需要ニ應ジ切レナカッタ、其時分ニ農商部顧問ノアンダーソン氏 宣化驛ノ陳列室ニ在ツタ宣化縣北門ノ烟筒山ノ鐵礦石標本ヲ觀テ良

質ナルヲ知り自ラ往イテ探查ノ結果、鑛脈ハ烟筒門龍門係ニ至ル故日支里ニ互リ概算價值十億元以上ニ達シ地下深處ノ鑛脈ヲ算外ニ措クモ約七十年間採掘ヲ續ケ得ラルル事ガ明ト爲ツタ、ソコデ陸宗輿等ノ首唱デ先ヅ株金五百萬元ヲ募集シ官督商辦事業トシテ陸ヲ督辦、丁士源ヲ會辦農商部技監張新吾ヲ總經理程文助ヲ主任技師ニ舉ゲ七年冬公司ガ成立シテ直ニ事業ニ著手シ、採鑛、機務測量、材料、運輸、會計、庶務、分析、醫務、秘書、監工等十一課及ビ四箇ノ工廠ヲ設ケ規模宏大デ有ラユル各種工程、運搬鐵道及ビ事務所、工人宿舍等ヲ設備シテ合計百二十餘萬元ヲ投資シタ、試掘ノ成績ハ頗ル佳良デ礦石ノ販賣モ相當利益ヲ獲タ、然ルニ精煉ニハ大冶廠ニ送ラネバナラヌ爲メ運賃高ク利益ガ無イ、ソレデ更ニ株金ヲ増加シ煉鐵廠ヲ建築ノ議ガ起リ約五六百萬元増資ノ事ニ爲ツタガ、安福派全盛時代デ増資ノ事モ容易ニ經

マリ民國八年煉鐵廠主任孫某ヲ米國ニ派遣セリ煉鐵鍋爐及ビ各種機械購入ヲ訂約セシメ竝ニ米人技師ヲ聘用セシメ、所ガ翌九年圖ラズモ安直戰爭起リ會辦丁士源等ハ逃ゲテ了ツタノデ徐世昌ハ朱寶仁ヲ會辦トシ、工事半バニ資金已ニ罄キタ爲メ徐世昌陸宗輿ノ手デ各數十萬元ヲ借入レ事業ヲ繼續シタガ十一年又奉直戰爭起リ徐氏ハ野ニ下リ、工事ハ已ニ十分ノ八マデ竣工シテキタガ陸氏モ亦手ヲ引キ公司ハ遂ニ總經理張新吾ニ由リテ支持セラレ毎月借入金ヲ爲シテ俸給支拂ヲ維持シタ、其内ニ張ハ直隸派ノ勢力ヲ藉ル爲メ直隸實業廳長嚴智怡ヲ拉シテ理事長ト爲シタリ安福系株主カラ甚ク反對サレタ、張ハ該礦ノ鐵ハ日本ニ需要ナルベキモノデアアルカラ十一年秋自ラ日本ニ往テ百八十萬元借款ノ約束シタケレド、歸國後一面ニハ董事會ヲ贊成ヲ與ヘズ一面ニハ直隸省議會デ日本資金借入ニ反對サレテ遂ニ中止シタ、張ハ諸事掣肘サル

ルヲ以テ病ニ託シテ請假ニ嚴氏ノ手デ進行ヲ計ツタガ經營ハ出來ナイ、是ニ於テ董事會ハ復タ張氏ヲ挽キ出シテ復職セシメ、張ハ金城農商懋業大陸ノ四銀行ト交渉シ四行ノ引請ケタ四百萬元ノ社債ヲ發行スル計畫ヲ立テ、先ヅ四行カラ利息一割デ百萬元應急借入ヲ行ハントシ周作民ノ斡旋ニ由リテ此相談ハ成立シタガ、董事會ヲ通過スル事ガ出來ズ公司ノ俸給ハ數箇月延滞シテ支拂ノ方法ナク張氏ハ復タ又辭職シタ、ソコデ新董事長ノ現任交通總長吳毓麟ハ沈祺ヲ派シテ代理經理トシ三箇月間ニ公司一切ノ事ヲ解決シ現狀ヲ維持セントシタガ意ノ如ク運バ無イ沈ハ吳ノ意旨ヲ承クル許リデ更ニ責任ヲ負ハズ只ダ廢物材料ヲ賣拂ツテ其日ヲ送ツテ居ル、職員ヤ工人等ハ斯カル現象ヲ見テ皆ナ已ニ四散シテ了ツタ、尙ホ居殘ツテキル者モ皆ナ自ラ方法ヲ設ケテ糊口ヲ維持シテ居ル、此事業ガ這ンナ失敗ニ陥キツタ原因ハ徐世昌ガ鑛山ノ全

權ヲ自分一己ノ勢力ノ下ニ集メントシ張新吾ハ徐系ノ人デ無イ爲メ張ノ借款及ビ社債計畫ニ極力反對シタカラデアアル、聞ク所ニ依レバ現ニ四大煤礦公司ハ該鑛山ヲ擔保トシテ銀行團ニ向ツテ借款ノ事ヲ希望シ、又白耳義銀公司カラモ一千萬元投資希望ノ說アリ、之ヲ要スルニ龍烟鐵礦ハ投資者無キヲ患ヘズ亦復興不能ヲ患ヘズ、患フル所ハ公司關係者内部ノ意見ガ紛岐シテ融和ノ出來ナイ事ニ在ルノミ

◎鑛業銀行組織

北京農商部ノ計畫セル鑛業銀行ハ資料金一千萬元ノ官民合辦組織ニテ曹銳、呂調元、鄭廷爾ノ諸氏發起ニ加名シ曹銳氏ハ二百萬、呂調元氏ハ五十萬元鄭廷爾氏ハ二十萬元ヲ出資シ或ハ資本ヲ二十萬元ニ増加セラルベク、目下農商部ヨリ參事李仁培氏ヲ天津上海各地ニ派遣シテ株式募集中ナリ、猶同行ハ本店ヲ北京ニ支店ヲ天津、上海、漢口等ノ各

地ニ設立スル計畫ニシテ多分曹銳氏總裁タルベシト

◎秦皇島硝子工場概況

目下秦皇島ニ建設中ノ板硝子工場ハ、會社名ヲ天津華耀玻璃股份有限公司ト稱シ本店ヲ天津ニ置キ社長ハ最初開辦ノ「ネーサン」少佐トノ說アリシモ「ネーサン」氏歸國後如何ナリシヤ不明ナリ、以前元支那財政總長李伯芝トモ稱セラレタルコトアリキ

技師ハ主トシテ白耳義人ニシテ Godde 及ビ Beer 等其王ナルモノナリト云ヘリ
資本金ハ千二百萬法(百二十萬元トモ稱ス)ノ三分ノ一拂込ニシテ内五百萬ハ流動資金ニ七百萬ハ硝子製造ノ特許權買收ニ(一說ニハ建設費トモ云フ)使用スト稱セラル而シテ流動資金タルヘキ五百萬法ハ二分ノ一ヲ民間ヨリ募集シ二分ノ一ヲ重役ヨリ出資スル由ナリ

原料ハ最初秦皇島同工場南方ノ砂山ノ砂ヲ用フル豫定ナリシモ種々試驗ノ結果不適當ナルヨリ湯河々岸ノ砂ヲ用フルトカ或ハ開灤炭ノ輸送船ノ復荷トシテ南支地方ヨリ取寄スルナドトモ稱セラレタルガ又最近朝鮮黃海道方面砂產地ニ人ヲ派シタル等ノ風説アリ眞偽何レカ明カナラズ

尙製造特許權ハ英人某ガ支那ニ於ケル硝子製法ノ特許權ヲ得タリシヲ前記 Godbe ガ之ヲ八千五百磅ニテ買ヒ該特許法ヲ以テ硝子製造ヲ開始スルモノナリトモ稱セララル

製造能力ハ年産二十萬箱(一箱ハ百平方尺)ト稱セラレ荷造用藁ハ一箱七百匁平均ナルモ一貫匁トシテ一年二十萬貫ヲ要ス而シテ該地附近ハ藁ニ乏シキヲ以テ是亦南支那地方ヨリ取寄スル由ナリト云フ

工場敷地二十八萬平方尺ニシテ工事ハ開灤礦務局ニテ請負ヒ大正十一年春ヨリ著手大正十二年未迄

ニ竣工ノ豫定ナリシカ種々ノ支障アリテ延引シ居ルモ既ニ大部分竣工シ居レバ近ク操業ヲ開始スルニ至ルベシ

尙大正十一年三月材料運搬用トシテ秦皇島棧橋用支線停車場ヨリ引込線ヲ敷設セリ

◎楊家坨炭販賣狀況

(本誌第四十六號、第四十八號報文參照)

運搬 產地京兆宛平縣楊家坨ヨリ積出驛タル京綏鐵道門頭溝支線三家店車站迄約四哩間ノ輸送ハ駱駝又ハ馬車ニ依レリ

出炭額豫想 本炭ノ出炭額ニ付テハ同坑當事者ノ談ナリト云フヲ聞クニ一箇年出炭額九萬噸日產額約二百五十噸ナリ

輸出狀況 本炭ハ從來坑所附近及北京天津等ノ市場ニ於テ產炭ノ全部ヲ消費シ居リシガ爾來出炭炭量ノ遞増ニ連レ大正十年頃ヨリ朝鮮及日本方面ヘノ輸出ヲ計畫スルモノアリ其契約成ラントセルニ

▲陝西省

◎陝西延長油田借款

在滬陝西省人等ハ最近同省督軍劉鎮華ガ日本人ト密約シテ延長石油礦區ヲ開採セントスル風説ヲ聞キ其實否ヲ質問スベク劉督軍ニ電報ヲ發シ且同省各公團ニ對シテ「劉鎮華ハ日人ト密約ヲ締結シテ延長油礦ヲ開採セントコトナルガ某方面ヨリ探查スルニ鉅額ノ賄款ヲ擧ゲ採掘權ヲ擔保トスルヲ許セリトコトナリ、就テ嚴重ニ其實否ヲ調査シ若シ事實ナリトセバ一致中止セシムルヤウ運動セラレタシ云々」ト反對電報ヲ其セリト

際シ會々大正十一年夏期全坑浸水ノ憂目ニ遭ヒタルガ爲右計畫ニ一頓挫ヲ來シタルガ長時日ノ排水作業ニ依リ漸ク復舊シ大正十二年三四月頃ヨリ漸次出炭量ヲ増加シ以テ今日ニ至レリ

天津船積渡值段 九號小塊炭ノ天津船積渡值段目下一噸ニ付銀七弗五十仙見當ナリ尤ヒ本炭ノ種別ハ二號塊炭八號塊炭九號小塊炭六號粉炭等ノ數種ニ亘レルモ九號小塊炭ノ外總ベテ坑所附近北京及天津市場ノ需要ヲ充スニ過ギザルヲ以テ茲ニハ九號小塊炭ノ值段ノミヲ掲ゲタリ

尙北京及天津ノ卸值段北京西直門車站貨車渡卸值段ハ一噸ニ付左ノ如シ

- 二號塊炭 銀八弗見當
- 八號同 同六弗同
- 九號小塊炭 同四弗五十仙同
- 六號粉炭 同四弗五十仙

天津老車站貨車渡卸值段ハ右ノ價格ニ各銀二弗ヲ加算セルモノナリト云フ

南支那方面

▲安徽省及江蘇省

◎安徽省官鑛債券發行

安徽全省官鑛督辦王達ハ曩ニ督辦事宜處ヲ設ケ各鑛區ノ調査測量中ノ處今回愈々官鑛債券百萬元ヲ發行ノ上經營進行ヲ謀ルコトニ決定シタル趣ニテ之ガ發行章程左記ノ通公表セリ

第一條 本債券ハ安徽省官鑛債券ト稱シ曩ニ農商部ノ許可ヲ經タル官鑛大綱辦法七條中第三條第三項ノ規定ニ基キ發行ス

第二條 發行總額ハ銀百萬元トス

第三條 本債券ノ利率ハ年利一分トシ毎年六月十二月末日ニ支拂ヒ三月元金ヲ償還ス元金償還期前ト雖官鑛純益金中ヨリ十分ノ二ノ配當ヲ受クルコトヲ得滿期債券ハ官鑛株ニ入ルノ權ヲ有ス但シ入株ノ際ノ手續ハ章程ニ依ルモノトス

第四條 本債券ノ利益金ハ督辦處ヨリ大綱辦法ニ基キ甲實業基金乙鐵砂稅收入ノ項下ヨリ計算支拂フモノニシテ豫メ在蕪湖指定銀行ニ預入シ每期ノ支拂ニ備フ其元金償還ノ時モ亦以上收入及官鑛營業收入中ヨリ豫メ償還額ヲ銀行ニ預入シ置キ償還スルモノトス

第五條 本債券ハ十元五十元百元千元ノ四種ニ分ツ

第六條 本債券ノ應募數ヲ制限セズ額面全額拂込ヲ要ス其募集手數料左ノ如シ

一萬元以上百分ノ六
五千元以上百分ノ四
三萬元以上百分ノ八
五萬元以上九掛

第七條 本債券ハ無記名ニシテ隨意賣買シ抵當トナスコトヲ得

第八條 本債券ハ每期利子支拂ノ際官鑛督辦處ヨリ新聞紙ニ廣告シ並利子預入ノ銀行ヨリモ新聞紙ニ廣告シ利子證書ニ憑リ支拂責任ヲ明ニス其

元金償還ノ時モ亦同方法ニ依ル

附則 本章程ハ農商部ノ許可ヲ經テ本省各機關ニ通知シ省議會ノ成立ヲ俟テ追認ヲ請フモノトス

◎江浙礦務監督署設立

北京政府ハ全國礦山開發ノ目的ヲ以ツテ從來各省實業廳ノ管轄ニ屬シタリシ各省礦務ヲ全國十大區ニ劃シ新礦務監督ノ管理ニ移サントノ案ヲ樹テタルガ、該案ハ已ニ閣議ヲ通過シ實行スルノ運ビトナレル由、現ニ江浙江礦務監督公署ヲ上海ニ設クルコトトナリ開設準備中ナリト云フ

▲湖北省及湖南省

◎大冶鐵山其他ノ採鑛原價ニ就テ

六河溝鑛業總公司技術部長王寵佑氏ノ「支那ニ於ケル製鐵及製鋼業」ト題スル一論文ニ據レバ大冶鐵山其他ノ採鑛費左ノ如シ

給料	〇、一五四兩
工賃及材料	〇、一四一同
運搬賃	〇、〇七四同
積込賃	〇、一三二同
其他雜費	〇、一四二同
計	〇、七二四(約一弗)

千九百十九年ニ於テハ諸材料及工賃ノ騰貴ニヨリ採鑛原價ノ昂騰ヲ來シ金利及ビ償却ヲ加ヘ積出出港著噸當リ二、八〇弗ナリ、現在原價ハ略之ニ近キモノナラン尙湖南省ノ各地ニ散在セル小鐵山ノ土法熔鑛爐ニ供給スル鑛石ノ原價ハ噸〇、六七二弗乃至三、三六弗ナリ最近大冶象鼻山ノ採鑛ニ從事スル湖北官鑛局ト揚子機器廠ヲ經營スル六河溝公司トノ間ニ同鑛石ヲ大冶解船乘一噸墨銀三弗六十仙ニテ供給スル買鑛契約成立セルガ其内容及規格次ノ如シ

三弗六十仙(水引ノ上價日2%)
鐵分 標準60%—62%、62%以上1%毎ニ10仙増60%以下%増スル毎ニ10仙減50%以下廢却
雜費 標準0.5%、0.1%ニ付10仙増減

硫酸 標準10%迄、10%以上1%ニ付5仙減、20%以上廢却
 機 標準0.05%、0.01%ヲ増ス毎ニ10仙減、0.01%ヲ減スル毎
 =10仙増0.1%以上廢却
 硫黃 標準0.1%、1%ヲ増ス毎ニ5仙減、0.5%以上廢却
 銅 標準2%其レ以上廢却
 總テ引渡鑛石ハ乾量トシ缺斤ニ對シテ2%添付尙
 以上價格ノ計算ハ同氏ノ推稱シ鑛政司ニ於テ採用
 セラルル次ノ算式ニヨリテ

$$\begin{aligned}
 X &= \text{最初契約當時ノ鐵價價格} & W &= \text{Constant} \\
 Y &= \text{最初契約ノ鑛石價格} & A &= \text{其年ノ鑛石買入價格} \\
 Z &= \text{鐵價ノ時價} \\
 A &= Y \frac{W - X \times Y}{W} \\
 \text{上記ノ場合 } X &= 70 \text{ 兩(契約調印1919年ノ鐵價時價)} & Y &= 4.10 \text{ 兩(最初ノ鑛石契約價格)} \\
 Z &= 35 \text{ 兩(今年鐵價ノ價格トス)} & W &= 4 \text{ (鑛石價格ヲ鐵價原價ノ四分ノ一トス)} \\
 A &= 4.10 - \frac{35}{4} \times 4.10 = 3.588 \text{ 兩(3.60兩トス)}
 \end{aligned}$$

尙著者ハ製鐵原價ニ就テ左ノ如ク記セリ
 製鐵原價ハ時々刻々變化シ一定セザルモ大體ノ見

及瀏陽産ノモノニ係ル其類僅少ニシテ僅ニ爆竹製
 作ニ用ユルノミ而シテ當地市場瀏陽市場ニ於テ消
 費セラルルモノ大部分ヲ占メ一箇年約二千擔内外
 ナリ其原價約十元見當ニシテ當地ノ市價目下每擔
 十一、二元ヲ稱ヘ居レリ其製造方法ヲ見ルニ鑛砂
 ヲ採掘シ總テ土法ニ依リ製鍊ス衡州附近ニ水口山
 産硫黃ヲ精鍊スル硫黃鍊廠アリ其方法稍々見ルベ
 キモノアリ其生産品質最良ニシテ其他ハ餘リニ良
 好ナラズ石門安化産之ニ亞ギ郴州産品質最悪シク
 土民多ク肥料トシテ使用ス
 當市ニハ本品製鍊業者ナク本品輸出ニハ財政司發
 行ノ護照ヲ要ス然シ目下ノ狀態殆ド官營トナリ居
 リ特定商人ニノミ護照ヲ與ヘテ之ガ輸出ヲ許可シ
 居レリ關稅ハ每擔銀二錢ニシテ漢口迄ノ運賃ハ一
 擔銀四匁五分ナリ現在當地ニハ本品專門取扱業者
 ナキモ二三商店ノ爆竹取扱業者アリテ硫黃販賣ヲ
 兼營セリ

當次ノ如シ

數量(噸)	揚子機器廠 (1923)	漢陽 (1920)	本溪湖 (1921)	米 國 (1923)
鐵	1.61	G#3.94	G#3.23	G#9.50
錳	0.02	0.14	0.33	
石 灰	0.40	0.32	0.46	G#14.83
炭 灰	1.11	10.76	13.46	1.25
房		0.18		10.5
計	15.16	17.76	14.83	21.25
勞	0.55	0.28	1.26	1.75
運搬及貯藏	0.30	0.12		
修理及保存	0.28	0.19	1.29	
機器費	0.03	0.36		
總掛費	2.60	0.96		2.00
金利其他	2.80	3.60	3.82	
力		0.62	1.28	
	\$21.72	\$23.89	\$22.48	\$25.00

◎長沙硫黃狀況

湖南省ハ各種鑛物豐富ニシテ硫黃亦其埋藏量多シ
 ト雖未ダ採掘ニ著手セシモノ極メテ尠ク數年前迄
 ハ供給ヲ輸入ニ仰ギシ有様ニテ目下當地市場ニ現
 ルルハ石門縣安化縣郴州縣下ノ二三鑛山及水口山

◎アンチモニー狀況 (大正十三年四月)

鑛ノ取引全盛期ハ歐戰時代ニシテ當時各國ハ競フ
 テ買占ヲ爲シタル結果鑛價格ハ底拔的氣配ヲ以テ
 暴騰ヲ續ケ遂ニ一噸ニ付生鑛四百餘一兩純鑛七百
 餘兩ノ高價ヲ唱ヘ當地方ノ斯業者ハ一様ニ巨利ヲ
 博シ産出額モ亦激増シ一箇年四百萬噸ヲ突破シタ
 ルガ大戰終了ト共ニ世界的經濟界ノ不況ニ禍セラ
 レ市況ハ急激ニ寂寥ヲ告ゲ價格亦暴落シ民國七八
 兩年ハ悲境ノ頂點ニ達シ取引ハ皆無ニ歸シ錫鑛山
 採鑛鍊鑛公司ノ工場モ其全盛時代ハ百餘家ヲ以テ
 數ヘシガ是亦其影響ヲ被リ忽ニシテ過半數ノ停工
 ヲ見ルニ至レリ其後民國九年頃ヨリ各國工業モ漸
 次再開ノ氣運ヲ示シ來リタル結果鑛ノ需要漸増シ
 且戰時中買溜ノ錫砂品薄トナリタルト相俟テ價格
 ハ弗々見直シ氣味ヲ示シ再後幾分ノ波動ヲ盡キツ
 ツ平調ニ相場ハ目立テ強調ヲ示シ三月中旬一時遂
 ニ三百七十元ヲ唱ヘ近來ノ高値ヲ示セリ之主トシ

ヲ漢口英商「マツケンシー」ガ曩ニ約五百噸ノ賣越アリテ其買埋ヲ急ギシ結果ニシテ約二週間前其買埋ヲ終了シ一段落ヲ告グルト共ニ先月末ヨリ暴落ヲ爲シ昨今二百七八十元ノ弱調ヲ唱へ一般當地方斯業者ハ一時停業ノ状態ニ陥リ錫鑛山ニテモ三月二十七日遂ニ停工スルニ至レリ尤モ今回ノ暴落ノ原因ハ左程根深カラザルヲ以テ錫鑛山ノ停工モ此處二週間位ニテ再開スベク其結果多少ノ反動的張値ヲ唱フベキモ暫時ニシテ三百元見當ノ平調ニ落付見込ナリ目下當地ニ於テ錄取引ニ從事シツアルハ獨逸商ノミニシテ一週ノ輸出高ハ平均十五六噸ト見レバ大差ナカルベシ

▲江西省

◎萍鄉炭狀況 (大正十三年二月 長州領事報告)

湖南省方面ニ集散スル石炭ハ其數量甚大ナル數字ニ上ルト雖萍鄉炭ヲ除キテハ總テ舊式土法ニ依リ

其產炭量一箇年約六七十萬噸ナリ

萍鄉炭ハ其色漆黒ノモノ多ク光澤良ク焙割合ニ短ク火力強シ而シテ殆ド無煙ナリ炭質比較的脆ク塊炭トシテ得ルモノ少シ是目下探掘中ノモノハ地中ニ深ク長年ヲ經タルモノニシテ壓力大ナル爲ナリ又粘結性強キヲ以テ「コークス」用トシテ最適ス其石炭及コークスノ含有物分析表次ノ如シ

名	揮發分	炭素	炭分	硫黃	水分
石炭	30.3	83.3	86.0	0.6	1.7
コークス	13.5	89.6	90.5	0.5	0.2

探炭中山元ニ於テコークストナスモノト原礦ノ儘輸送スルモノト殆ド相半シ其運搬方法ヲ見ルニ目下ノ處涿口迄萍鄉鐵道ニ依リ運搬セラレ同處ヨリ水路民船ニ依リ長沙ニ出テ汽船ニ積換漢口ニ輸送セラル、モノ及株州ヨリ興漢鐵道ニ轉載シ直接漢口ニ至ルモノトアリ其運賃ハ「コークス」毎噸一

小規模ノ探掘ニ係ルモノニシテ多ク民船ニ依リ附近市場ニ運搬シ消費セラル故ニ實際長沙及岳州ノ稅關統計表ニ現ル、數字ハ湖南產石炭輸出額ニ非ズシテ總テ萍鄉炭ノミナリ故ニ數年前迄ハ同統計表ニハ之ガ名稱ヲ萍鄉炭トシテ計上シ居リ他ニ石炭トシテノ統計ヲ示サザリシ程ナリ而シテ萍鄉炭ハ一方省内消費量僅少ナルヲ以テ兩稅關ノ統計ヲ以テ直ニ萍鄉炭ノ出炭量ト見ルモ大差ナシ最近五箇年間ノ萍鄉炭及同「コークス」產出量ヲ知ランガ爲兩稅關ノ輸出統計左ニ示ス (單位噸)

名稱	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年
石炭	—	—	—	—	—	—
コークス	—	—	—	—	—	—

岳州稅關

名稱	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年
石炭	—	—	—	—	—	—
コークス	—	—	—	—	—	—

而シテ最近其產出量一日約二千噸ト稱シ一箇年九十萬噸ヲ以テ最高リミットトナシ居レリト雖事實

元六角石炭同一元二角ニシテ苦力賃每噸二角五分内外ナリ之ガ關稅ハ石炭每噸銀一錢五分「コークス」同銀二錢二分五厘ヲ要ス萍鄉炭ハ爾來漢口漢冶萍公司ノ燃料トシテ供給スルモノ大部分ヲ占メ市場ニ現ル、モノハ殆ド其割ニモ及バズ市價隨テ割高ナリ同石炭及「コークス」ノ價格次ノ如シ

石炭	一等品	每噸	十五元以上
同	二等品	同	十四元乃至十五元
同	三等品	同	十四元以下
同	二等品	同	二十三元
同	三等品	同	十八元

政變ノ搬出上ニ及ボス障害トシテハ軍隊輸送ノ爲列車ノ徵用又ハ一時運轉中止及兵變ノ危險ニ依ル船舶航行ノ杜絶等ニ依ル運搬中止ノ如キ往々アリ其他何等影響ナシ

萍鄉炭礦ハ當方面鑛山中唯一ノ新式方法ニ依ルモノニシテ其設備完全ニ近ク目下ノ處探掘數數量殆ド頂上トモ言フベク今後増資ニ依リ出炭量増加ス

ベキモ運搬能力之ニ伴ハズ即チ目下運搬狀況ヲ見ルニ一車約三十噸堆積スルモノトシ一列車約五百噸ヲ積込一日三回以上積出スルヲ得ズ而シテ漢口迄ハ目下一日一回ノ往復アルノミナリ故ニ特ニ増資ノ必要ナク又増資スルモ結果餘リニ得ル處多カラズト豫測セラル併シ最近本鐵區ヲ湘東附近迄擴張シ新坑口ヲ見出サントスル計畫アリト言フモノアリ

▲廣東省

◎香港ノ滿僱鑛輸出狀況

香港ヨリ輸出セラルル滿僱鑛石ハ全部廣西省ノ産ニ係リ江口武宜大灣等ハ同省ニ於ケル主ナル産地トス世人往々該鑛石ガ梧州ニ於テ産出セラルルガ如ク誤解スルモノアルモ同地ハ單ニ原産地タル廣西省ヨリ香港ニ搬出セラルル途中ノ積替地タルニ過ギズ

▲一般商況 廣西省ノ滿僱鑛ハ印度産又ハ日本産品ニ比シ品質優良ニシテ且鑛量豐富ナリ歐洲大戰中本鑛石ニ對スル需要激増シ本邦ヘハ勿論遠ク歐米各地ヘモ盛ニ輸出セラレ一九二〇年同二一年頃ニハ米國ニ於ケル市價好況ヲ呈シタル爲紐育向輸出量ノミニテモ數萬擔ニ達セリト報ゼラレ又當時米國人中同省ノ鑛山事業特ニ滿僱鑛ニ着目シ利權獲得ニ奔走シ其筋ヨリモ技師ヲ特派シ廣西省一帯ニ互リ調査セシメタリト傳ヘラル前述ノ如ク當時本鑛石取引ノ有利ナリシヨリ取扱業者モ相當積出セルガ其内鑛區ヲ所有スル主ナルモノハ和璋同源寶源合益等ノ諸公司(何レモ香港)トス然ルニ大戰後一般經濟界殊ニ製鐵界ノ不振ニ原因シ需要激減市價低落セル爲本邦其他海外ヘノ輸出激減シタルト他面ニ於テ探掘費輸送運賃等ノ昂騰ニ伴レ取引上ノ探算困難ニ陥リ加フルニ一昨年來廣東廣西ノ兩省ニ於テ動亂相踵グニ乘ジ匪賊横行シ輸送

民船ノ航行甚ダシク阻礙セラレタルトニ因リ前記和璋同源ノ二公司ハ合益公司ト合併シテ事業ヲ繼續シ居レル外他ハ殆ンド事業中止又ハ解散ノ止ムナキニ立至レリ同地白人商社中(Besi Company)ノ如キ營業トシテ本品ヲ取扱ヒ居ルモノナキニアラザルモ前述ノ事情ニ依リ現在殆ンド供給能力ヲ缺クガ如シ尙本鑛石輸出邦商トシテハ同地ニ東亞通商株式會社出張所アリ前述合益公司ト特種ノ連絡ヲ有シ一年一萬五千噸乃至二萬噸位ノ供給能力アリ

▲最近五年間輸出年額

一九一八年	二四八、七三擔	八三、五七磅(英)
一九一九年	一九三、三五	四八、七六
一九二〇年	三九、〇六一	一一、八〇六
一九二一年	一四八、八三	三六、一七
一九二二年	三三、八七	一八、五五

▲最近二年間仕向先

國名	一九二一年	一九二二年
英國	八擔	一〇擔
美國	一九磅	四磅

▲雲南省

◎雲南鐵產出狀況 (大正十三年五月)

(雲南領事報告)

雲南省ニハ鐵鑛山約二百餘箇處アリ楊鐵鑛最多ク菱鐵鑛赤鐵鑛之ニ次グ同省ノ如キ交通不便ナル地ニ在リテハ其生産費運賃等嵩ミ到底海外市場ニ角逐スベクモ非ズ從テ其開發容易ナラズ現今其生産ハ省内ノ需要ヲ限度トシツアルモノノ如ク目下全省年産額約七百八十餘萬斤ト稱セラル其產地別産額概數左ノ如シ (單位一萬斤)

南支那	二七	五	三
日本	一三、四一	二、五〇	八、五〇六
日	一三、四一	二、五〇	八、五〇六
米	三、三三	四、五三	四、三六八
獨逸	一	一	三
和蘭	一	一	三
合計	一四、八二	二六、一七	一八、五五

雲	六〇
羅	五〇
雲	五〇
師	四〇
路	三〇
南	三〇
定	三〇
陽	二〇
保	二〇
劍	二〇
安	一〇
易	一〇
蘭	一〇
永	一〇
計	七八〇

歐洲戰爭ノ發生ト共ニ世界市場ニ於ケル鐵價俄ニ暴騰シ外國鐵ノ輸入困難ナリシカバ省内各所ノ鐵鑛業盛ニ興起シ從來僅ニ省内ノ需要ニ應ズルニ過ギザリシモ一躍シテ國外輸出ノ趨勢ヲ招致シ一時利益多カリシガ戰爭終了ト同時ニ鐵價低落シ再ビ往時ノ需給状態ニ歸リ毎年鎮雄ヨリ百萬斤良爨ヨリ六十餘萬斤ヲ陸路四川ニ羅平ヨリ數十萬斤ヲ同

ジク貴州へ移出シツツアルノ外ハ何レモ幼稚ナル土法ニ依リ鑄鐵ト爲シ鹽場ニ使用スル鐵鍋竝地方ニ於ケル日用ノ粗雜ナル器具類ノ製造ヲ爲シ省内ノ需要ニ供シツツアルニ過ギザルノミナラズ省内ニ何等製鐵工業ノ見ルベキモノ無キヲ以テ年々鈔カラザル鐵釘生鐵鐵板鐵線其他ノ鐵器具類ヲ海外ヨリ輸入シツツアリ

◎石黃產出狀況 (大正十三年五月 雲南領事報告)

石黃ハ一名雌黃ト稱セラレ各種ノ染料製造消毒藥用及砒素ノ製造原料ニ供セラレ重要ナル鑛產物ノ一ナルガ從來支那ニ於テ多ク本鑛物ノ產出セラルルコトヲ聞カザルモ獨リ雲南省鳳儀縣鳳尾山ニハ石黃鑛山アリ年產約四萬斤ト稱セラレ雲南省西部ノ開市場タル騰越稅關ヲ經テ英雄緬甸ノ瓦城ニ輸出セラルルモノ一年約三千擔ニ達シ其外四川地方ニ移出セラルルモノ鈔カラズ雲南省ノ鑛產物ガ箇

舊ノ錫ヲ除クノ外海外市況ノ影響ヲ蒙リ何レモ不振ナルニ係ラズ石黃ハ割合ニ良好ナル成績ヲ舉ゲツツアリ鳳儀縣石黃鑛廠ノ產出狀況左ノ如シ
位置及沿革 石黃鑛廠ハ雲南省城ヨリ西北行十二日行程洱海ニ近キ鳳儀縣城ノ西北蒙化ノ東ニ位スル山中ニ在リ鑛廠所在地ハ鳳儀縣ノ公有地ニシテ坑嗣六アリ文德源長興銅學校公嗣(老廠トモ云フ)福興嗣新廠トモ云フ蘇霖望子孫嗣張常許嗣之ナリ石礦ノ發見セラレシ年代ハ之ヲ詳ニシ難キモ鑛廠ノ西ニ古屋一棟アリ屋內ニハ阿魁老太開山楊太爺ト誌サレシ木碑一アリ之ヲ廠人ニ問フニ阿魁老太ナル者茲ニ石礦ヲ發見シ楊太爺之ヲ開掘セリト語レリ現在六坑ノ中最古キハ學校公嗣ニシテ明ノ時ニ始マリ其他ノ五坑ハ前清時代ノ開坑ニ係リ產額ノ最多キハ文德源ニシテ其他ハ盛衰一定セズト云フ
地質鑛床 鑛廠地方ノ地質ハ多ク粘板岩ニシテ岩

山ノ表面ハ土質ニ屬ス坑道附近ハ淡白色ノ土ニシテ山麓ニハ間々砂岩ヲ目撃ス鑛脈ハ厚薄不定ニシテ鑛層ノ傾斜亦一ナラズ走向ハ正南ヨリ西北ニ向ヘリ母岩ハ多ク泥灰岩ニシテ鑛石ハ緻密ナリ本廠ニハ塊狀ノ雌黃俗稱石黃ノ外間雄黃ヲ發見スルコトアルモ其量多カラズ
探鑛 探鑛及開坑 本鑛廠ハ探鑛開坑竝進法ニテ地面ノ適當ナル處ニ一坑道ヲ掘リ黑色ノ泥土ヲ前導ト爲シテ進ミ雄黃(黑泥中ニ混在シ其量鈔シ)ヲ發見スレバ必ズ鑛床ニ至ルノ前徵ト爲ス開坑法ハ最初一斜坑ヲ掘ル坑口ハ高サ六尺六寸幅四尺五寸下幅六尺五寸ナルガ嗣内ハ漸次ニ狹隘トナリ高サ三尺六寸上幅二尺四寸下幅二尺八寸ヲ超ヘズ開坑器具ハ鶴嘴及鐵鋤ノ二種ニシテ途中若シ堅牢ナル石ニ遭ヘバ六角形ノ鐵鑽及鐵錘ヲ以テ鑿撃前進ス鑛石ノ主要成分ガ硫黃及砒素ナルヲ以テ爆發藥等ヲ用ユルコト能ハザル關係上專ラ人力ヲ用キ一

度大石ニ遭フ時ハ之ガ破碎ノ爲ニカヲ費スコト尠カラズト云フ

探鑛既ニシテ鑛床ニ達スレバ上記器具ヲ用キテ探鑛シ大鑛層ニハ丸木ノ臺或ハ梯子ヲ造リテ工夫其上ニ上リ或ハ座シ或ハ臥シテ工作ス其外特記スベキモノナシ

支柱 木材ヲ用キ直徑五寸長サ六寸位ノ脚木二株ヲ坑口ノ兩側ニ立テ下ニ六尺五寸長ノ床木ヲ嵌メ上ニハ四尺五寸長ノ頂木ヲ架ス脚木ノ距離ハ上部ノ壓力ニ依リテ斟酌シ壓力弱キ地ハ一尺間隔トシ壓力強キ處ハ四五寸或ハ二三寸ナル處アリ地底ノ強キ處ニハ底木ヲ用キザルモ坑道ノ傾斜セル處ニハ尺餘ノ間隔毎ニ床木ヲ使用ス坑頂及兩側ハ條板及枝葉ヲ以テ填塞ス

排水及通風 排水ハ主坑ノ底處ニ一水溝ヲ設ケ各坑内ノ流水ヲ溜集シタル上排水セシムルガ各坑ヨリノ水溝主坑ニ通ゼザル間ハ各坑共長サ十二尺長

ノ竹筒製ノ唧子ヲ以テ排水シ居レリ

通風ハ主坑ト各坑間ニ一通風道ヲ造リ割合ニ空氣ノ流通良ク工夫ノ工作ニ苦痛ヲ與フルコト無シ點燈 鐵製ノ錫形點燈器ヲ用ヒ口徑約四寸一邊ニ灣曲セル片鐵アリ鐵片ノ上端ニ鐵鈎アリ點燈器ハ柴油七八兩(十六兩ガ一斤)位ヲ容ルル容積アリ運搬 探掘セル鑛石ハ之ヲ竹籬ノ中ニ入レ十數歲ノ小童之ヲ坑外ニ負出ス運搬數量及回數等ハ其體力及坑ノ遠近ニ依リテ一定セズ鑛洞ヨリ九十支里ヲ隔ツル下關ノ洪盛公司迄ノ運賃ハ一駄百五十斤ニテ六十仙ナリト云フ

選鑛 鑛石ハ坑内ニテ工夫之ヲ粗選シタル後坑外ニ搬出シ更ニ其中ヨリ他ノ岩石ト混同シ居レルモノハ手錘ニテ碎分シ碎分セル細砂ノ土石ト雜合シテ分離セザルモノハ淘汰法ニテ之ヲ處理ス鑛夫 各坑共平時工頭一人坑夫二十數人アリ若シ大鑛層ヲ發見シタル時ハ三人(錘手一人運搬夫二

人)ヲ增加スト云フ作業ハ朝晝夜ノ三班ニ分テ朝班ハ午前六時ヨリ同十一時晝班ハ正午ヨリ午後五時夜班ハ午後六時ヨリ同十一時迄ノ各五時間宛トス工賃ハ工頭毎月制錢(銅錢)七千乃至八千文工夫三千乃至四千文運搬小工夫千八百文乃至二千文ニシテ食事ハ米及毎月豚肉二斤乃至四斤豚油四斤ヲ各人ニ支給シ居レリ

產額 各坑ニ依リテ異リ文德源ノ如キハ毎年三四千碼ナルモ其他ハ最少四五百碼ニ過ギザルモノアリ

販賣 前清宣統元年八月一日石黃販賣ノ目的ヲ以テ下關ニ洪盛祥石璜公司ナルモノ設立セラレタルガ同公司ハ鑛廠ト計リ十年間毎年各碼ヨリ石黃四百五十碼ヲ公司ニ定納シ一碼ノ定價ヲ銀一兩八錢トシ一年毎ニ一碼ニ付三錢宛ヲ割増スコト、ナリ居リシガ民國七年滿期ト爲リ公司ハ更ニ之ヲ繼續シ各坑四百五十碼ヲ公司ニ賣リ公司ハ鑛廠ヨリ下

關迄ノ運賃ヲ支拂ヒタル上每一碼ノ定價ヲ三元五十仙トシテ引取十年ヲ限リトスルコトニ決定シ販賣ヲ引受ケ居レルガ公司ハ石黃ヲ買入タル後之ヲ英領緬甸及四川等ニ輸移出シ一碼約三十元上下ノ市價ヲ有スト云フ

▲新疆省

◎新疆省ノ油田開發

二年間新疆省ニ在リテ「マルコニー」會社ノ無線電信臺ノ建設ニ從事セル英國技師「ドックレー」少佐ハ最近北京ヨリ上海ニ到着セリ、同少佐ハ新疆省烏魯木齊地方一帶ニ數千哩ニ亘リテ擴ガリ恐ラク現在ニ於テ世界最大ニシテ且埋藏量最モ豊富

ナリト信ゼラル、廣大ナル油田ノ開發ニ關シテ上海英米石油會社ト商議セル所アリテ各社ハ既ニ其本店ニ向ケ調査委員派遣ニ就テ照會ヲ發セルガ尙其外ニ米國礦業界ノ有力者タル「ブツケンハイム」商會竝ニ日本ノ三井ガ大ニ之ニ注意シ三井ハ既ニ北京ニ於テ支那政府ニ對シ之ガ採掘許可ヲ運動スル所アリシモ支那ノ不安狀態ト回教徒トノ反對トハ利權獲得ニ困難少カラザルガ如シ、尙「ブツケンハイム」商會ハ近ク大規模ノ調査隊ヲ派遣スベシト(上海チャイナプレス)

雜報

◎滿鐵會社地質調査所大正拾貳年度事業概要

滿鐵地質調査所ノ業務ハ主トシテ滿蒙ニ於ケル應用地質ニ關スル調査研究即チ各種有用礦物ノ探究其他資源調査、鑛山ノ鑑定工業原料產地ノ實質的價值ノ研究、地下水、温泉、地盤ノ調査等ニシテ概ネ當會社ノ事業上ノ必要ニ基キテ施行スルモノナリト雖モ亦一面社會ニ對シ其學術的竝ニ應用的調査研究ノ發表又ハ實際的指導ニ依リテ滿蒙ノ天然資源開發ノ指鍼ヲ與ヘ斯業ノ獎勵ヲ計ルニアリ、而シテ本年度ニ於テハ大體前年度ニ引續キ滿洲各地ノ地質鑛産ノ調査ヲ施行シ鑛山、鑛產物ノ經濟的價值ノ研究其他鑛區出願ニ關スル調査、測量、製圖、地質圖ノ作製等ニ從事シ又前年ノ繼續事業

タル南滿洲ノ系統的的地質調査ニ向ツテモ亦大ニ其ノ事業ヲ進メタリ
本年度内ニ於テ施行セル主要ナル調査研究事項左ノ如シ

- 一、撫順炭田調査竝油質頁岩ノ分布及鑛量調査
- 二、興安嶺林區内有用礦物調査
- 三、鴨綠江沿岸地質及鑛產物調査
- 四、稀有金屬調査
- 五、奉天省弓張嶺其他鐵鑛床調査
- 六、吉林省一面坡及黑龍江省碾子山其他北滿諸炭坑調査
- 七、烟臺耐火粘土產地其他ノ鑛區竝採掘計畫ニ關スル調査
- 八、窯業原料調査
- 九、各種工業用礦物ニ關スル調査
- 十、南滿洲地質圖幅ノ内營口、奉天、鳳凰城懷仁ノ諸圖幅調査

十一、北支那各地鑛山調查
十二、黃土ニ關スル調查研究

本年度當地質調查所ニ於テ出版セシモノハ滿洲四拾萬分ノ一地質圖大連圖幅說明書壹冊及支那鑛業時報第五拾九號乃至第六拾壹號參冊ニシテ前者ハ滿洲地質ノ系統的調查ノ說明書後者ハ當所ニ於テ拾數年來發行シ來レル所ノモノニシテ當所員ノ地質及鑛山ニ關スル調查報告、滿蒙及支那ニ於ケル重要鑛山ノ業務報告統計類其他各種ノ資料及支那鑛業界ノ近況時事等ヲ掲載セルモノナリ
目下編輯又ハ印刷中ノモノ滿洲鑛產分布圖、滿洲產鑛額統計表、滿洲ニ於ケル邦人關係鑛山一覽表

奉天省
◎東三省ニ於ケル鑛業ニ關スル指令 (自民國十三年一月至同年四月)

(注) 省ハ省長公署、實ハ實業廳、財ハ財政廳

實	指令 種別	指令 番號	月	日	申請人	件	名	摘	要
一	一	一	一月	四月	湯佐輔	撫順縣南溝村炭坑礦區圖等ノ書類提出ノ件	撫順縣南溝村炭坑礦區圖等ノ書類提出ノ件	申請書類ハ規定通りナルモ設備計畫書ニ就テハ更ニ縣知事ノ調査ヲ要スルコト	

支那ノ鐵道ト鑛產地等數種アリ
尙當所ノ標本室觀覽者ハ年々増加シ、本年度ニ於テ學者、教育家、官吏、軍人、實業家等其他學校生徒各種團體ノ參觀者壹箇月數百人ニ達セリ當所ニ於テハ其都度所長以下所員各種陳列品ニ就キ説明ヲ與ヘ聊カ滿蒙產業ノ發達、學術ノ普及ニ資シ兼ネテ會社事業ノ宣傳ニ努ムルトコロアリタリ現存ノ標本類ハ滿洲蒙古西比利亞其他支那各地產ト諸外國ノ參考品トヲ合セテ參千餘種アリ、而シテ該陳列品中ニハ學術上極メテ貴重ナル標本モ亦尠カラズ。

二	二	二	一月	五日	劉盛助	西安縣白水泉子炭坑三期分礦區稅採入申請ノ件	西安縣白水泉子炭坑三期分礦區稅採入申請ノ件	十一年度下半年及十二年度上下半年分礦區稅大洋二四三元ハ規定金額ニ符合スルヲ以テ採入ヲ許可ス	
三	三	三	一月	五日	佟宗萬	撫順縣炭坑採掘出願ノ件	撫順縣炭坑採掘出願ノ件	願書礦區圖及手數料等受領、但隣接礦區トハ關係及距離、尺度等不備ナルヲ以テ礦區圖ノ訂正ヲ要スルコト	
四	四	四	一月	五日	王洪齡	本溪湖太平山花崗岩採掘出願ノ件	本溪湖太平山花崗岩採掘出願ノ件	花崗岩ハ第三類礦物ニ屬スルヲ以テ地方行政官(縣知事)ニ申請スベキコト、依テ一切ヲ返付ス	
五	五	五	一月	五日	張元凱	鳳城縣新開嶺東部新開嶺北部地方炭坑採掘出願ノ件	鳳城縣新開嶺東部新開嶺北部地方炭坑採掘出願ノ件	一切ノ出願手續完備スルヲ以テ其後ノ手續ヲ實行スルコト	
六	六	六	一月	八日	陳明遠	義縣趙家屯地方炭坑十二年度下半年分礦區正稅採入申請ノ件	義縣趙家屯地方炭坑十二年度下半年分礦區正稅採入申請ノ件	上記稅大洋一〇元ハ規定額ニ符合スルヲ以テ採入ヲ許可ス	
七	七	七	一月	八日	宋德彰	遼寧縣馬家堡子滑石礦十二年度二期分採掘礦區稅採入申請ノ件	遼寧縣馬家堡子滑石礦十二年度二期分採掘礦區稅採入申請ノ件	上記稅大洋一元五角五分ハ規定額ニ符合スルヲ以テ採入ヲ許可ス	
八	八	八	一月	八日	梁振武	法庫縣炭坑採掘出願ノ件ニ對シ縣署ノ調査復命アリテヨリ日數ヲ經過シタルニ付手續進行ニ便セシムル爲メ告示方申請ノ件	法庫縣炭坑採掘出願ノ件ニ對シ縣署ノ調査復命アリテヨリ日數ヲ經過シタルニ付手續進行ニ便セシムル爲メ告示方申請ノ件	本人ノ出願礦區ハ韓世昌ノ三家子炭坑區域ト接近シ他日紛擾ノ憂アルヲ以テ本人代表ヨリ申請中ノ礦區ノ地點變更ヲ取急ギ處理スベキコト	
九	九	九	一月	八日	范宜春	探掘中ナル撫順縣古城子炭坑代表者ヲ變更シテ探掘許可證手數料等提出ノ件	探掘中ナル撫順縣古城子炭坑代表者ヲ變更シテ探掘許可證手數料等提出ノ件	一切ノ書類受領、但シ礦業條例施行細則ニヨリ名稱變更ニ要スル費用ノ不足額ノ追納及新名義人ノ手續實行スベキコト	
一〇	一〇	一〇	一月	十日	魏永和	西安縣魏家堡子炭坑ノ隣接礦區圖閱覽申請ノ件	西安縣魏家堡子炭坑ノ隣接礦區圖閱覽申請ノ件	出願礦區ハ省長ノ保留スル保安礦區ト重複シテ稱サレシモ本人ハ然ラズトシテ上記申請セシモ同取扱ナキヲ以テ規定旅費ヲ納入シテ再踏査ヲ俟ツ可シ	
一一	一一	一一	一月	十日	丁鑑修	遼陽弓張嶺炭坑礦區稅採入申請ノ件	遼陽弓張嶺炭坑礦區稅採入申請ノ件	十二年度下半年分大洋二一〇元三分ハ規定額ニ符合スルヲ以テ採入ヲ許可ス、尙試掘權ハ十二年十二月二十八日ニテ期限滿了、鑛業條例ニヨリ手續實行スルコト	

實	實	實	實	實	實	實	實	實	省	實
二二	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一	一四	一三	一二
一月十七日	一月十七日	一月十七日	一月十二日	一月十二日	一月十二日	一月十二日	一月十日	一月十日	一月十日	一月十日
湯佐輔	潘作榮	齊越庭	李明田	張從謙	張煥松	何長清	登璽廷	杜守智	梁恒德	劉鼎臣
撫順縣小孤爾屯南溝地方炭坑採掘出願ニ出スル書類提出ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件	撫順縣新屯東四嶺地方炭坑採掘出願ノ件
十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促	十二年度分ノ催促

實	實	實	實	實	實	實	實	實	省	實
三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二	二
一月二十九日	一月二十六日	一月二十六日	一月二十六日	一月二十六日	一月二十三日	一月二十三日	一月十九日	一月十九日	一月十八日	一月十八日
尙志	郭松齡	康品卿	周允衡	華阜鐵礦公司	丁麟德	范宜春	佟宗萬	丁東閣	鄧喜亭	鄧喜亭
李鴻吉ニ代リテ撫順縣小孤爾屯炭坑採掘區稅納入申請ノ件	開原縣境甸子東北溝老虎頂子山各地方金礦ノ採掘區減申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區圖保證書等ノ書類提出ノ件	遼陽縣東城子炭坑取消方申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區稅納入申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區稅納入申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區稅納入申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區稅納入申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區稅納入申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區稅納入申請ノ件	撫順縣古城子炭坑採掘區稅納入申請ノ件
十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分	十二年度下半年分五二二元二角一分

實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一
二月二十日	同	同	同	同	同	同	同	同	一月二十九日	二月二十九日
吳紹庚	湯佐輔	王襄臣	王襄臣	范宜春	王益三	田仁林	陳明遠	李鴻吉	黃慶庚	潘福源
義縣關家屯炭坑礦區稅納入申請ノ件	撫順縣小孤兒屯炭坑探掘出願ノ件	蓋平縣李家溝地方螢石礦々區稅納入申請ノ件	蓋平縣張家溝地方螢石礦々區稅納入申請ノ件	撫順縣古城子炭坑礦區稅納入申請ノ件	海城縣劈柴溝滑石礦ノ礦區ハ重復セザルニ付再踏査申請ノ件	義縣陳明遠ノ趙家屯炭坑讓受認可申請ノ件	探掘許可ヲ受ケタル義縣清河門趙家屯炭坑礦業權ヲ田仁林ニ讓渡シタキ旨申請ノ件	本溪縣馬鹿溝銅礦々區稅納入申請ノ件	海城縣楊樹溝滑石礦々區稅納入申請ノ件	海城縣楊樹溝北大山滑石礦々區稅納入申請ノ件
十二年度下半年分大洋四〇元六角五分、十三年度上半年分未納	本人ハ原籍瀋陽縣ナルヲ以テ同知事ニ再査査チナサシメ、且探掘設備計畫書ノ訂正ヲ要スルコト	十三年度上半年分一三元二角七分五厘	十三年度上半年分五二元五分	十一、十二兩年度分四七元六角			礦業條例ニ據リ一切ノ必要手續ヲナスコト	十二年度全年分大洋四一〇元一角	十二年度全年分大洋一四元四角	十二年度全年分九元

實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二
同	二月二十二日	同	同	同	同	同	同	二月二十三日	二月二十六日	同
吳梁登	何長清	何長清	崔英麟	徐省三	張永盛	劉鳴春	徐省三	黃湛中	靳廷章	孫廣學
法庫縣四家子地方炭坑探掘出願ノ件	海城縣大孤子山地方長石礦探掘出願ノ件	海城縣嶺站溝地方長石礦探掘出願ノ件	蓋平縣劉家溝滑石礦探掘出願ノ件	復縣高家屯炭坑礦區稅納入申請ノ件	海城縣峪子溝苦土礦々區稅納入申請ノ件	義縣霧露炭坑礦區稅納入申請ノ件	寬甸縣鼓樓東南大浦河地方炭坑探掘出願ノ件	鳳城縣青城子銅鐵々區稅納入申請ノ件	臨江縣三岔子炭坑十二年度上半期稅金納入申請ノ件	遼陽縣臺子溝地方炭坑新規探掘出願ノ件
上記出願ニ對シ再調査ヲ行フコト	出願手續終了、但シ訂正ヲ要スル部分ヲ訂正シ且其後ノ手續ヲナスコト	同上	出願手續中、連名保證書ノ訂正及設備計畫書ノ訂正ヲ要スルコト	十二年度下半年分八一元、尙十年度、十一年度、十二年度上半年分計四〇五元、滯納、十三年度上半年分計二連セルコト	十二年度二期分一六元五分、十三年度上半年分二連セルコト	十二年度二期分八六元一角、十三年度上半年分二連セルコト	出願手續中訂正ヲ要スルコト	上記礦區稅十二年度二期分八一〇元、尙本人ノ岫巖縣小孤兒屯、寬甸縣牛毛屯、鳳城縣羅圈背、各鎮礦三箇所ノ十二年度分二、〇六一元、滯納ナルコト	八一元、十二年度下半年分及十三年度上半年分ヲモ納入スルコト	出願手續完備其後ノ手續ヲナスコト

實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三
三月十八日	三月十四日	三月十日	同	三月五日	三月五日	同	同	三月四日	三月三日	二月二十九日
金鼎臣	蕭大勳	譚英多	易恩凱	藍玉林	吳殿卿	蕭大勳	吳殿卿	吳德齡	彭相臣	王羅氏
鳳城縣于家堡子溝蓋蓋家溝鉛礦探出願ノ件	通化縣缸窩溝炭坑礦區稅納入並技師證書交付申請ノ件	海城縣廟兒溝買家堡子東南山滑石礦探出願ノ件	海城縣永泉山村北山々咀吧地方滑石礦探出願ノ件	撫順縣古城子村南河套柳毛子地方炭礦探出願ノ件	本溪縣山城溝炭坑ノ探掘開始期日ヲ報告シ印鑑ヲ提出シテ認可申請ノ件	通化縣缸窩溝地方炭坑探掘出願ノ件	指令ニ從ヒ本溪縣朴家堡炭坑計畫書提出ノ件	海城縣楊家店地方苦土礦五期分礦稅納入申請ノ件	鐵嶺縣黃石礦子小窩溝地方滑石礦探掘出願ノ件	商人ノ艱難ヲ恤ミ葛布街月牙山炭坑礦業權ノ原狀恢復申請ノ件
出願書受理、縣知事ニ命ジテ調査中	十三年度上半期四箇月分第一期稅五四元、許家後ノ手續ニ就テ	手續完備、條例施行細則第十五條ニヨリ審査處理ヲ申請スルコト	出願手續受理、當廳ニテ手續中	日本人ノ礦區ト重複スルヲ以テ取消ス		手續終了、三月一日ヨリ六月末日ニ至ル第一期礦區稅大洋五四元納入ノコト、施工計畫狀況ヲ隨時報告スルコト	申請書及計畫書ノ内容ヲ訂正スルコト	十一、十二、及十三年度上半期分一七四元三角八分、尙九年度上半期分三四元八角七分五厘未納ナルコト	探掘設備計畫ノ訂正	

省	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三
四月五日	同	四月一日	同	同	三月三十一日	三月二十七日	同	同	同	同
張慶發	張漢卿	吳泰來	趙恩普	李深祿	張亞興	張元凱	實業廳	譚多英	劉祖謨	魏永和
孫世榮、日本人ト結託シ地券ヲ強要スル旨申告ノ件	興城縣大窩溝地方炭坑探掘出願ノ件	鳳城縣四棵樹溝裡樓子溝銀鐵探掘出願ノ件	西安縣鴨子園花園炭坑礦區稅納入申請ノ件	西安縣駱子峽炭坑十二年度下半年期礦區稅納入申請ノ件	錦西縣缸窩溝屯炭坑探掘出願ノ件	前ニ探掘ヲ出願シタル鳳城縣新開嶺北山炭坑ノ資本證明書等ノ書類提出ノ件	鎮山探掘出願ニ關スル履歷保證書及商店ノ連名保證書ノ格式ヲ制定印刷シテ下付使用セシムルノ件	探掘中ノ礦山ノ土地ヲ最近買收シ契約書ヲ縣署ニ提出シテ名義書換ヲ爲シタルニ付縣知事ヲシテ檢査セシム可キ旨申請ノ件	鳳城縣五道嶺子大理石礦探掘出願ノ件	西安縣魏家堡子炭坑探掘出願ノ件
實情實業廳ニ於テ調査中	出願手續、調査、終了依テ其後ノ手續ヲナスコト	願書受理、縣知事ニ命ジテ調査中	十三年度上半期六〇元	西安縣駱子峽溝門西山坡地方炭坑上記稅一六一元二角九分五厘、十三年上半期分未納	出願書類受理、其後ノ手續ヲナスコト				手續完了、其後ノ手續ヲナスコト	同

實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
八三	八二	八一	八〇	七九	七八	七七	七六	七五	七四	七三
四月十九日	同	四月十八日	同	四月十六日	同	同	四月十五日	四月十日	同	四月七日
王吉臨	易恩凱	姜寬	郭松齡	于鴻翼	孟凌雲	周海清	湯佐輔	孫恒春	劉殿魁	何長清
本溪縣榴石溝炭坑礦區稅納入申請ノ件	海城縣水泉村北山々咀吧地方滑石礦探掘出願ノ件	西安縣城子崗炭坑區稅納入申請ノ件	開原縣大金廠石金鐵探掘出願ニ關スル資本證明書提出ノ件	莊河縣莫家屯炭坑探掘出願ノ件	瀋陽縣地方炭坑ノ原狀ニ回復シ探掘許可申請ノ件	撫順縣下章黨炭坑合辦ニ關シ速ニ告示シテ手續進行ニ便セシムコトヲ申請スルノ件	撫順縣南溝村炭坑礦區稅納入申請ノ件	瀋陽縣劉通士屯炭坑礦區稅納入申請ノ件	西安縣貉子峽炭坑礦區稅納入申請ノ件	海城縣大石磊子山地方長石礦探掘出願ノ件
十三年度分一四九元七角		十三年度上半期分六五元三角		願書受理、調査終了、但シ設備計畫書ノ書式訂正	十年度下半期ヨリ十三年度上半期迄礦區稅計一〇〇元九角九厘、納稅期限後ハ礦業權ヲ取消ス可キコト	知事ナシテ本人ニ就テ調査中ナレバ本人申請ノ手續進行ハ證據ニ及バズ	十三年度上半期四箇月分五三元	十三年度上半期分八一元	十二年度下半期分一六二元、十三年度上半期モ納期ニナリシコト	出願手續及調査終了、依テ其後ノ手續ヲナスコト

實	實	實	實	實	實	實	實	實	實	實
九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四
四月三十日	四月二十八日	四月二十八日	四月二十八日	四月二十八日	四月二十八日	四月二十五日	四月二十五日	四月二十五日	四月二十五日	四月二十四日
佟松森	吳尙忠	王巨川	王秉鉞	王巨川	孫荊山	馮金生	戚國卿	譚英名	傅承文	徐省三
撫順縣阿金溝炭坑本年度上半期探掘區稅納入申請ノ件	撫順縣東洲河地方炭坑探掘出願ノ件	鳳凰縣弟兄山鐵礦區稅納入申請ノ件	海城縣唐定子溝及山檀溝滑石礦探掘區稅納入申請ノ件	本溪縣梁家堡地方炭坑礦區稅納入申請ノ件	海城縣麻耳峪地方滑石探掘出願ノ件	興城縣夾金山金礦十二年度全年分礦區稅完納申請ノ件	西安縣孟河亮坑礦區稅納入申請ノ件	海城縣唐定溝滑石ノ增區出願ヲ許可セラルルヤニ付告示申請ノ件	西安縣牛載河地方炭坑本年度上半期探掘區稅納入申請ノ件	復縣高家屯炭坑礦區稅納入ノ件
大洋二百十九元九角	出願人氏名ト押捺シタル印證ハ符合セサルニ付明白ノ届出ヲナスマテ許可保留	大洋七十元六角五分	大洋三百十六元二分五厘	大洋七十九元五角	探掘許可	大洋百六十元四角	大洋八十一元	礦山業者王秉鉞ノ礦區ハ重複ニシキ不許可	大洋六十九元六角	十年度全年及十一年度上半期礦區稅大洋二百四十三元

實	九五	四月三十日	周文貴	撫順縣塔子溝子炭坑本年度上半期礦區稅納入申請ノ件	大洋四百八十五元四角
實	九六	四月三十日	周文富	復縣大姑子廟炭坑本年度上半期礦區納入申請ノ件	大洋二百二十六元六角五分
實	九七	四月三十日	周文貴	十三年度上半期礦區稅ヲ納入シ並減稅申請ノ件	大洋五百八十五元八角、減稅不許可
實	九八	五月三日	寧夢岩	本溪縣石哈塞西南小榆樹溝地方滑石礦探掘出願ノ件	探掘許可並ニ登錄費大洋二百元探掘資本五千元ニ對スル省城銀行ノ預金ノ證明書一通提出ヲ要ス
實	九九	五月三日	魏永和	西安縣魏家堡子炭坑探掘出願ノ件	探掘許可、登錄費二百元並探掘資本一萬元ノ省城銀行ノ預金證明書、三人ノ連帶保證ヲ要ス
實	一〇〇	五月三日	王樂三	蓋平縣徐家屯北大山崗地方苦土礦礦區訂正申請ノ件	礦區訂正許可、登錄費五十元
實	一〇一	五月三日	張寶鏞	開原縣大金廠地方石金礦讓受出願ノ件	他礦區ト重復ノ有無及先ニ出願シタル他人ト紛擾ナキヤチ調査ノ必要アルヲ以テ其ノ旅費ヲ納付シテ踏査ヲ俟ツベシ
實	一〇二	五月三日	郭松齡	瀋陽縣灣道河子村高北嶺光明山地方炭坑探掘出願ノ件	讓受許可並ニ本年度上半期礦區稅大洋三十六元納付ヲ要ス
實	一〇三	五月三日	史玉瑛	柳河縣紅旗杆地方炭礦區納入申請ノ件	十三年度上下二期奉天票大洋六十六元大洋換算四十九元二角尙小洋一分二厘不足及十二年度下半年分二十四元六角滯納
實	一〇四	五月十日	吳尙志	撫順縣東洲河地方炭坑探掘出願ノ件	本人提出ノ礦區圖ト實地ト符合ノ有無及隣接礦區ト紛擾ノ有無ヲ調査ノ必要アリ旅費ヲ納付シテ出張ヲ俟ツベシ
實	一〇五	五月十日	孫荊山	海城縣麻兒峪滑石礦第一期礦區稅納入申請ノ件	十三年度上半第一期三箇月分大洋三元八角六分三厘

實	一〇六	五月十日	天利煤礦公司 坐辦梁傑興	遼陽縣大榆溝等四箇所炭坑礦區稅納入申請ノ件	大洋三百五十二元三角五分
實	一〇七	五月十日	梁恒德	西安縣孟河亮地方炭坑地方炭坑礦區稅納入申請ノ件	大洋百五十九元三角
實	一〇八	五月十七日	康品卿	撫順古城子炭坑繼承ノ原申請ヲ取消シ既ニ提出シタル保證書ノ返付ヲ受ケ紛擾ヲ免レタキ旨申請ノ件	本人ハ自ラ范登春、馬雲亭等ノ續業權ニ對スル代表者ヲ取消サントスルモ其實情審査ノ上處理方法ヲ協議ス
實	一〇九	五月十七日	本溪湖煤鐵有限公司	本溪縣杉松河地方森林登錄費納入申請ノ件	森林地名七箇所登錄費大洋二千八十元
實	一一〇	五月十九日	吳開忱	撫順縣吳家坎炭坑探掘出願ノ件	出願礦區ハ廳內備付ノ地圖ニ其地名ナシ依テ更ニ礦區圖五通ニ礦區ノ位置其他詳細ナル説明ヲ加ヘ提出スヘシ
實	一一一	五月二十日	郭松齡	海城縣山城子滑石礦區稅納入申請ノ件	大洋三十七元五角
實	一一二	五月二十日	郭松齡	開原縣西景家溝內高家東山地方石金礦探掘出願ノ件	本人提出ノ礦區圖ト實地ト符合ノ有無及先ニ出願シタル者及其他ト紛擾ナキヤチ踏査ノ必要アリ旅費ヲ納付シテ之ヲ俟ツベシ
實	一一三	五月二十三日	林秀山	大興煤礦公司私有地チ探掘スルニ付縣知事ニ公斷ヲ命ジテ損失ヲ免レシメタキ旨申請ノ件	撫順縣知事ノ確實ナル調査ノ結果ニ依ツテ處理方法ヲ講ス
實	告示	五月二十六日	實業廳告示	瀋陽縣東部礦山官營ノ件	鹿鳴、張寶鏞、孫長玉ノ出願礦區ハ官營保留礦區ノ必要上該出願礦區ヲ取消ス
實	一一四	五月二十七日	田仁林	陳明遠ノ納入スベキ義縣趙家屯炭坑礦區稅代納申請ノ件	大洋八十一元
實	一一五	五月三十一日	王樂三	蓋平縣徐家屯苦土礦區稅納入申請ノ件	大洋七元五角

省	省	省
四	五	六
一月十日	一月十八日	四月五日
鄧	鄧	張
璽	喜	慶
廷	亭	發
張晉忱外資ヲ借入レ礪山探掘出願 ヲ爲ス旨申告ノ件	張晉忱外國人ヲ特ニ礪區外ノ礪物 ヲ探掘スル旨申告ノ件	孫世榮日本人ト結託シ地券ヲ強要 スル旨申告ノ件
實業廳ニ於テ調査ノ上其裁決ヲ俟ツベシ	實業廳ヨリ縣知事ニ命シ調査セシメタル上 復申スベシ	實業廳ニ於テ詳細ニ調査ヲ遂ケ嚴重ニ處理 具申スベシ

南滿洲鐵道株式會社
地質調査所
所長 村上 飯藏
編輯者 藤平田 文吉
印刷所 小林又七支店

終

